

萬笈堂製本



言

235

雲林龍子才撰眼筆石頑張路玉著十戒可謂醫家之龜鏡矣

怪廢箕裘之業而不免尸素之罪也因不量無随作斯編

公口童棒之

學不止記誦養其良知良能當

有一月二十有七

合觀之

酒有未悉者子今兹花申適 周惟惟後生輩

图 言食 蒲

鄙 未有此 澄思款 發學重

T. 多紀永壽院法印述

昔晋ノ虚溥ト云モノ諸生ニ論テ日學者ハ村ノ不及ラ 患へべたノ立ザルヲ患ヘョト又明ノ王陽明ガロク志

燕湖

立サレバ天下成ルベキノーナシト。殊更醫人徒ハ初學

忠孝仁慈ラ本トン治學兼備人良エトナリ上い君父人 片ヨリ志ラ立ル1堅固ニスベン醫ノ志ヲ立ルトハ

身ラ安心下八衆族人疾ラ教ハント心ラ専ラニン意ラ

病家三對心貴賤貧富力論十久診視處劑 一トスルラ云ナリ如此二志ラ立テ學術精致にスへ

野 多 和 司 ヲ畢ルマデ念と念テ急ルーナキ片い自己一人ノ益ノ 比新 毫モ忽略セザルコト己か心ノ癖トナレバ煩勞ラ覺工 自上達シテ良醫タラムコト必セリ此業八君父人性命 三ナラズ子孫ソノ遺風ヲ承テ永ク其德ヲ保テ世々芳 ナリ能クコノ域ニ至ラバ其材ノ長短利鈍ニョラス各 三開係シテ連沿此上ナン且ツ病ノ變化測リカタク醫 ズ孔子云ク少成八天性ノ若ク智潤八自然/如シト是 道 傳へ家道隆盛ナル丁疑ヒナシ古人云明醫ノ後 幽深ナレバ練熟ノ上ニモ戦兢ラかへ老後ニ至ル 知月開キ異聞月廣クレ妙理奇術ラ精究セント身

醫ラ仁術上稱し又司命ノ職上人其義如何トナレバ シテ人人命ョリ重キハナン其重キ命ラ司ル任ナレバ 必又昌大ナリト第二虚語ニアラス ラ會得心醫タルモノ、君父三事へ奉ルニハ如何セバ 凡百枝藝ノ中二於三醫業ホド重キハナカルへレ又其 給へり此三依天死生人命ラ司ル職上云丁二テ司命 中二君父人疾三施治センハ殊更ナリ醫家軍ョク此義 古先聖王醫師人職又設ケ民漢ヲ救と大横ヲ免レレイ 君子も其術ナキ片八其仁ラ行フフアタハス是故 トイヒ又仁術圧稱センナリ意フ三人小萬物ノ靈三

齊言守官成

醫多

初訓

ンク命終リテー人も活タルモノナン其故如何ト尋又 1ノ至ナルベン性處或國三五穀不登ノ1アリテ餓 けい必太思ハズシテ大罪二階ルーアリ最恐懼スペキ 忠孝トセンハ其業ラ精專スルョリ外ナン若此三暗キ 忠ナルベキ如何セバ孝ナルベキト自ラ省ン三醫家 ルニ凡饑人 中二富高アリテ側隠ノ心切ナルへ、費ラ出し搏 多クト、ノへ與ヘタルニ饑人ツノ飯ラ喫スル 途三満产或ハ匍匐し或ハ倒し即产居タリシラ行客 人漸クシテ稀粥ヲ喫シ數日ノ後軟飯ヲ食セシ ラ教 ハントナラバ先粥清等ノ物ヲ與へ t

仁人術 世或八云醫ハ專ラ病ラ治スル三用アリテ其他異論ア 少力如キモイアリ醫家軍深夕思フベレ アリテ不忠不孝不仁不慈ノ罪二陷八八商が仁 ノナらト云上肝要ノ學術三時片八不思しテ失診誤藥 ラ唱へ身端力心誠ニレテ行状ニ於テ那モ議スベキモ ルフ機人 トナリレ也醫ラ以テ業トスルモノ口頭三忠孝 ラ枚フ術ナルニ此 ラ知ザリン故仁心却テ不 のとはない ラ施

ラ業トスル者ノナキ丁菩提心灵發レテ釋門ニ入

野事官義

ルベカラズ利終ラ本上スル心ヨり比術ラ業トスルト

モ何人妨カコレアラム所詮忠孝仁慈京本忠小シテ醫

唇 多 不 高 今以往昔都下三一名標婆アリ其術頭ル妙二入自ラ其 ナレタル也若名利見捨テ仁慈ノ心ラ本トレテ斯術 使三跨レルカ偶線を引視テ死胎ナリト家人三告ク己 ラズ己が膝ニテ壓殺シ其言ノ違ハザルラ自負セリ是 三分娩人際三至リテ探り候ラニ活胎ナリケレバ人 ラズ是皆商賈工匠/屬と總テ甲段ナル者人本志ナル 濟度セン為三出家スルモノ無が如心此説固三左モア 其名ラ失へバ其利ラ失フ故如此殘恐惨刻人振舞ラ 業十七八三假今一旦其餘为誤此在膝力以方壓殺人二 ルベン去ナガラ醫名ラ以テ禄社スル者人用心ニハア

レテ意ラ留べ權貴富豪二八節ラ屈レ意ヲ盡しテ診視 ラ寛ンコトラ本トスル者の假令其術神ノコトクナリ 至ルマンキナリ凡醫ヲ以テ生活ヲ計ル者ニンテ名利 **圧薬賞ノ多少ラ論心貧賤養斯ノコトキハ診視ラ忽略** 此故三醫ラ以テ禄力世々二人八七十八也孝多本基上 及デハ他ノ病證三云ナン他人人能可蔽以我が不能ラ 極り彼人穏婆が所為二等シキ者アルマジキュアラズ 飾り商費ノ利ヲ逐テ親疎ヲ辟ケザルが如クニレテ其 處南スル軍少カラス甚ん十三至リテ六十旦ノ効験ラ 取べ中藥ラ施シテ後日ノ害ラ省三大變證蜂起スルニ

醫家の川

デ士農工商,四民八分論俳優朱儒,殿キスラ俗樂或 慈人四ラ関ユヘナリ凡人人世三居ル各自營山所アリ 者一人モアルアナル朋友ョリ那人贈物ラ得分心ラモ 八滑替ラ以テ人ノ軟ラ助ルニ勞動レテロラ糊セザル スル所以本業三批ヨリ外ツナン如何トナンが忠孝仁 故力的費不利了過了親凍多群界がルガ物々不好了出 相應ノ報酬ナクテハ叶フマン然ルニ歳ムナレ圧酸ル 人人二班べき丁十取マジキフアリ醫家班べき人最下

丁ナク歲寒スレ 展東ユルコナク妻子眷屬マデ安逸

日ラ曠夕心夏日ノ長キニハ日ノ暮ラ待テ寝三就キ明 養フ俸禄ヲ累代賜ル君三對シ奉リテハ莫大ノ洪恩 報ゼントスル心ナク當テ家業ラ動メス年中逸豫レテ

遂三八連訴茶者圍基就鞠其他八雜伎尹以テ本業十

幕逸樂/餘リイツ力奢侈/心增長之家賞給セザレ

タガへ身ノ本分ラ尼レ弄臣ノ振舞ラ動下心得熟ル氣 色毫髪モナキハ淺間レキアノ至リナラスや其中二一

等アリテ素餐ラ恐レ徒二平士ノ如ク朝夕ノ直番ラ動 メ左ナガラ有司ノ熊ノナン卒三昏倒ノ病人 ヘアルニ臨

野 言 宫 钦

デハ問章根限レテ病人ト共二面土色ノ如ナルラ傍 三似テカラ帯タルマデニテ醫ノ工拙ハ論スルニ及 リ平和ノ藥方砂録シテ秘書ト號シ大醫ノ體ニテ弟子 捧腹レテ笑柄トスルラモ知及數年人動功习自慢スル ラ養に病家多ケレた皆人ラレテ不死不生ノ間ニョ シムルノ手段ニテコレラ官醫ノ治法ト唱へ其實僧形 西三奔走スレ氏素ョリ不學無術ナレバ入門回春中ョ イハンマシキガタメ且利慾ノ心ヲ加へ楽籠ヲ持セ東 八何ノ動ラ動ト心得タルヤ又一等アリテ是亦素餐上 大此等皆耻べ十八甚レキナラスヤ然ル三特リ衣服居 初訓 五 强 書 館 カ

ク不幸ト云べし其故如何トナレハ醫八司命ノ職ニテ ノ肚トスル所ニテ丈夫ノアルマジキフト知べン 其志り遂ナバ程伊川ノ所謂少年三ノ高科は登ルト同 ラ進三禄ヲ増ンフタボルハ大二道三背ケンフナリ若 醫名ラ以テ禄仕スル華弱年ニレテ自ラ印可ラ出し 華スラ自ラ許テ大醫ノ班二列セン1ラ希ハ有識 ノ朝山所ナルラ弱勢ノ華ニシラ醫經數千言ラ誦し治 ラムトスルハ其君人身命ラ輕ンズルニ當レバナリ老 君ノ安危三關係久心大任ナルス弱数ニレラ其任二當 美ナラズ災勝ノ盛ナラサルラルトスルハ婦 位

カリ

バ病情病變初中未ヲ診視し不側ノ妙理ヲ識悟スルヿ 病人ヲ多ク治療スルニ如クハ莫カルべし貧賤人者ハ 術 的月得 クハ陽三治ヲ請受テ陰三他醫ノ藥ヲ服シ其藥ハ積 アリ類位八醫三八食賤人者八 病發ョリ快復又ハ命終ルマデ一醫三委ルモノ多ケレ +国ク深ク思と遠夕慮ルベキノ至ナリ且少年ニシテ 慎スペキノ至ナリ且弱冠ニレテ立身 顯位三處スル片ハ中人以下三治ラ請 テ夏月蚊遣ノ料トナルヲ知べ如此 熟スルフアタハズ左ナクメガ一事ラ誤ラバ ル三其意ラ得テ志願已ニタレリト安心決定スルョリ 又八不治上心得テ活センモ死センモ他醫ノ所為 中ナレバ所詮醫治ノ真理ヲ得ントスルニ心ナン然 付が其活セン井八品顔二自負シ 人智業ラ實意ラ以テ智熟セントナラバ質賤養厨 二於テモ稍得ル所アリトモ積年ノ功ラ積ザレバ 心此ヲ以テ他ノ病人三律ト 以上い類位外した弱華八醫二 ルフナクシテ君ノ實用二害ョナス二至ル最謹 訓 スルコナク漸二學術荒廢三及七世務ノ三專 九 單少恐 ス ルユへ竟二治術 證八 い請フモ 死セレ井八般 セント禁ル程 モノ少シ總方治 レテ治ラ請 如此藥ニテ 八鮮 如何 善自館 圓 真 置 ズ

严等官裁

出身心忠孝ノ道立テ世榮ラ獲ンフラ願フベレ大器晚 他事ナク學術ノ智業ラ專精二動人數年ノ功ラ積 可ナランヤ此義ラ自ラ省我心二問テ知へし弱勢一革 文字ハ孝經二出テ君父二事ルノ道全シテ身ラ忠孝二 立ルライヘリ然ルニ未ダ智業ノ熟不熟ノ沙汰ニ及サ 三八必其名聲四方三發シ君ノ撰三舉ラレ吾才ノ程 ル不忠ラ以テ吾身一己ノ荣利ラ得ルラ立身ト稱シ ル年來ニシテ自ラ良醫ノ席三列シ君ノ身命ラ輕ン 一二ナリテ君ノ為ラ謀ル心ハ总レ果ル二至ル立身ノ 下古人モ云リ必太弱冠ニレテ仕進ラ見ルニたスト 部

キトキハ君ヲ恨三人ラ尤テ遂三放逸三至ルモノ 勿レ又世二或八其業ラ動メ學術漸ク二進三出身稍 本志忠實ョリ出スレテ初學ョリ仕進ラ希フ心事ナ 此最縁ノ甚キナリ君三奉リン此身ナレバ撰權=満 ョリ起レル故ナリ 圧益勉勵ノ愈謹格ナルベキニ左ナクノ憤問スルハ其 以一大排戶心味或十戶醫者

名ラ以テ紫利ラ貪り寛閣三暮ス醫賊ノーラ云ナり此 勤上心會學術人修行八同職人者又八病家人人上相應 徒八學術ノ動ルト不動トラ知大專ラ世事ノ務ラノ三 福醫ノ有様ラ美三其行ラ學ブベカラズ福醫十八醫ノ

習ナルラ解了レテノ計策ナリ輕證ノ棄置テモ愈ル病 大事業トン許り数キテ親切モノ、名ラ取り四方三奔 受我が處方ニテ快カラザレバ前醫處方ノ不當ヲ指 走レテ人二思と付レンフラ謀ルハ疎遠ナル醫者 エョリ下エニテモ親シキ醫者二先以藥乞フハ世中 スル病人三古候後レク見ユレバ口給ラ以下我方へ引 +程二見計ヒテ他醫へ讓リテ我罪,免上他醫人施治 ラ我効トスルハ勿論危酸ナルベキ病人十見ユレハヨ ザレバ藥もり人多カラス故三相識多クセンエ夫ョー 論十戶居宅競宏三構个方外節戶第一十戶相識多力方 三族投ダニ出來ヌレバ事足レリトン醫事ノ真理八置テ 初副 顕譜鯡離

タンノ間ニ智ヲ振し我罪ノ追レ様ニ巧ニナレバ醫術 し當テコボレ幸ニ効ラ得ル者アリ或ハ病ノ方ヨリ痊 作り我投劑,病人他醫,療治ニテ効ラ奏スレハ我投 ナケレ圧夥レク藥ラ撒ナラス中ニハヨキ處へ藥ラ投 三巧三ナリト世ニモテハヤシ高名トナリ實功サラニ 齊 一二人妙藥ニテ稀二効アルコモアリテ百人中二十 ルヺ己 効今アラハレレナド云ノ類ニテ年中病人受取 中ニハ百人信用スルモノア カ 功トン或八他醫ノ功 ンド ナルラ我功トン或 病家モ多クナリ

藥ラ處心速三月與三打乘リ一家モ多ク省ルラ動ト 藥スルイミニテ仲景ノ所謂相對スルコ斯須ニレテ湯 時節一酬賽七亦多十三樂三夜月日二繼广奔走上村識 戸見聞ラ廣人意智ラ益スーナン元來根底ナケレバ益 ヲ知ラズ年ヲ累子老二至ル程醫治ノ道ハ 會是ラ一大要務トレ人迎跗陽明堂關庭ナニモノナル べき智モナク伸スベキオモナク徒ニ病家三到リテ投 明暮是等ノーニ神思ラ労心追ナケレバ醫事ノ上三就 宴三歡ラ助ケ贈り物構へ物三種 多ケレバ吉山ノフタへ大其間二八寒暑人問尋花月 身其弊ラ免レズ司命人職ハ斯アルマジキラ疑フ者 寛潤二暮ス模様ラ見聞し人情ノ智ナレバ自ラ美ム心 以テ虚名高ク居宅八諸侯ノ第ノ如ク家族奴婢等大勢 ラ子孫隨從八子弟二傳へ類族尽少其風二化心亦復終、 多ケレバ抗顔ニシテ倨傲ナル體ラヨキコト心會終身 ラ生じ初い實學ナル人モ如此セザレバ祭利ラ獲かタ 我行ノ道二乖シヲ知又我が非ヲ知ザルハ是非十心是 ノフニテ宇宙ノ間二處セラルト安堵心藥資ノ收 人モナキ三至ル且此黨ノニナラズ外節華麗二口給 上心得自然上彼人風三化心思八天那路三陷り藥賣 言 々八奇巧ラメグラ 誰々モケ様

と と

齊壽官數

敗那義 世或ハ云庸醫モ病ラ治し良工モ病ラ治セザルファリ 非した死コレニ及ブト云へり恐ルベレ恐ルグレ 病ノ治ト不治ト八醫ノ精鹿二預カラスト此説庸醫ノ ヲ取ル者ハ鴆酒ニ湯ヲ止ムルが如心暫ク能カザルニ 報心奉ルベレ左ナクレテ福醫ノ所業ヲ羨三君ヲ欺ト 身ンテ醫道ノ間與三至リ其真理ラ得テ無涯ノ君思ラ 此枝ラ以テ禄仕スル者八他事ナク戰兢ラ加へ粉骨碎 其治ヲ謬リテハ再と蘇生スルフ無三極レルナレハ其 特り奈何セン君父ノ病ルニ於テ小夢中三夢ヲ説ク 人所行う學で遂三右ノ醫賊トナリ果テ真ノ醫事ラ豪 陽教ナク氏陰護免レガダレ太上感應篇云非義人財 人ヲ欺キ徒三祭利ヲ食ラバ其罪竊盗ヨリ大三級令と 八腹ヲ劃を候ヲ刺テ其罪ヲ謝スルハ古今ノ通義ニシ 夢ラ語ルガ如ク浴々トレテカヘラズ可嘆り至りナリ 吾枝ノ鹿ナルラ節ル二資テ口實トスルラ弱冠ノ テ其君、身命二妨ナシ其後名臣良吏出テ其政ラ改 置テ人ヲ欺クラ業トレ人モ欺カル、ラ覺へ及夢中に レバ更二舊政二優ルフアリ醫ノ一事二於テートタビ ニテ可ナルベキヤ凡有司ノ人其職ヲ診ルフアレ ~ 言 トと腹ラ劃之喉ラ刺スた何 ノ益カ アルベキ故

対反の川一

齊 計 言 気

險難 者ノ如之病ノ人人驅物ニアルス其表ョリ視見スル 治ニレテ死スルハ天数ノ盡ルナリ醫ノ罪ニハ非ス疑 工以心眼明ニシテ離婁力如心魔工、心眼暗グレテ瞽 醫八良エニテモ下工二見卫中頃三更タル醫八下工 其譯如何トナレバ總方疾病人様ナラス其中三見證 テも良工トスル類ョリンテ玉石混淆ノ謬説起しり良 明月八人十雖王辨太 テ遂荒廢スルニ至ルモノアリ院嘆スルニ餘レリ夫良 竊三比説ラ付ニスル心ョリンテ自ラ動ム心エル三急 テ盡の其理ヲ委し其理ヲ究メテ治スルハ効ヲ奏し不 實三色キョ水谷ノゴトクナリ然ルニ右ノ安説起ル ノ人ノワカチ識べキニアラザルラ漫三施治スルコフ 治 素人八病因ノ輕重ヲ辨スルリナキ故二初發三投劑ノ アリ左ハアレ圧病初ョリ中項マデハ病勢劇シグ中項 工ノ施治スルハ豁然タル眼目ラ以テ古人ノ規矩ラ用 ヨリシテ漸々二諸證穏ニナリテ遂二平復スルナレ レテ怪我スルガ如クニメ是非ナン然した良工ノ失 非命二命ラ隕ス二至ラズ庸醫八眼中二定見十少 證三至り若該テ其治ラ失スル者ハ明目ノ人 初前 ノ病ナレ圧淺那ナレバ服藥セズレ元自ラ愈心者 ベカラザル證子川児や心眼昏暗 野書

とは

刀川

齊言首食

カヒ人 凡醫家智業八學上術上相須テナルフナリ學術ノ智業 事へ奉ラムト欲スルハ泰平ノ代ノ罪人此上ヤアル トナルが如心醫經本草ノ類ハ法帖ナリ病人ラ手掛 キ能々此義ラ自省テ庸安ノ説 從フベカラス レテ般セル故三異國ノ律ニモ過失ラ以テ人ラ般ス テ誤り勘カラムリヲ願ヒ人ヲ殺スマジキ上工上成 病ラをス丁必然ノ道理ナリ然ラハ幾重二七古學数年 夜二上礫ラ旗ウツが如ク中ルモ隅中又中ラザルモ偶 胸裏二準繩ナレ是故三病人ヲ診スル初ヨリ瞽者ノ暗 テ業トスル者ノ用心ナレ凡人ヲ殺セレ者ハ必ス死刑 テ君父三事へ奉ルベント堅固三志ラ立ルコソ醫ラ以 アラズ且學術未熟ナレバ人ノ藥殺し精熟ナル上工い 中ナレバ艇令病ラ治シタリ氏安治ニシテ其醫ノ功二 三行ル、1古今ノ定律ナルニ醫ノ人 馬字ラ學ブ者人法帖ニョリテ手做シ 手做スルナリ醫經本草等ノ軌範ラ以テ病人 シタリ然ルニ智業ヲ忽セニシテ偶中ノ幸ラコ 功見積テ稍得ル所アルラ覺タリ圧猶モ切磋琢磨し ラ免ル其故如何トナレバ人ラ被サンフラ心トセ ラ殺スコラ本分上定メタル薄技ラ業トレ君三 ラ藥殺セレハ其 テ漸や二我有 二施シ 上子

泥心諸家註釈ノ得失二心カラ竭レ又本草二鍋ル 藥劑ノ當否ラ参伍ン彼是熟案ン數年ノ間歷試經驗 ルガ如心醫經經方ノニニ耽ル者八丈義章句ノ間ニ拘 リ若如此 悟ラレメ 寫字ラ學ントレテ徒二諸法帖ラ玩弄し自ラ手做 八專ラ廣博二萬テ徒二物產/探索二精神ラ勞心治術 然ルラ或云醫ノ業ハ専ラ書ラ讀三在上此最モ解論ナ ル丁潭心精思九折り功ラ積テ逐三良工タ 又病人ョリレテ醫経本草ノ説二既シ病證變化人機 三心ノ潜ノ不紙上ノ空言ノミナレバ事ノ上三就タ ザレバ比説 二懲儿彼 二思ガケナク興眩スルーアレバ益疑惑シテ益誤り此 テ胸中感亂心自身ニモ安心セザル薬ラ投スルーナレ 片八常二胸中二覺タル古説二符合セン病證 ラ専ラ 妙用ヲ曉サズ故二年長シテ病人 病二滴 初訓 トレテ生活ラ計ルマデノ 丁ナク朽果ル者下り此 華三治術運用ノ機 バ明哲ノ醫タルベキニ其非ノ顧ミザルユへ ナル井八終身治術 スベキ箸ナク効ノアルベキヤウモナン其中 口二怖人遂二學上術上相離人治術人只平稳 ニヤ從 八八彼論 世 ノ真理ラ得ルコア や依べキト猶豫孤疑し 治ラ請フ者アルニ遭 7 二六生涯醫法人真 ルベキナリ ノミアラ

当一人 八通儒ト呼レタラム人八悉ク明醫ナルベケレ氏左 テ認メタ テ醫術八毫髮を會得セスレテ一生ヲ畢ル者アリ文章 ハアラズ別三智業ノ法アル丁知べし凡醫書八漢文 意味ラ合点セザレバ性命ノ文ナル書ラ讀アヤ 詩賦ニテ醫治手二得ルモノナラバ古今ノ文人騒客又 り此伎ラ學バザル故力忠孝二志篇カラム人八能其非 文二本ト素習セザレバ卒二改變二難レトハ此等人並 八醫書ラ讀山了破竹ノゴトケラン六治树八其中三在 所二レテ言ラマタズ然ルラ書籍ラ玩フ人人是ラ論 者了少其徒虚文浮詞二耽少文章夕二結撰 ラ省テ改ムベレ又似テ非ナル者ニレ ラ云ナ 説ョ實事トレテ購ク年月月送り年ノ長ジタルマテ 别二學ブニ足ズト此等ノ言ラ聞き隨從ノ弟子氏師 差千里少誤 法帖二臨テ数々手做シテ上達スルガ如ク理ノ爾 ルハ 生ラ A 師 4 14 テ 副 ル者ナレバ文章ノ句法字法又八虚字助字 誤ルニ至ル誠ニ悲ムべ ベン學術相須テ成ルイハ猶ラ寫字ラ學ブ者 自身 教誨フノカラ得ザル故力将夕忠孝ノ心 ルフノ恐アレバ文章ラ学ブモか醫ラ學 二結撰セザレバ戦ラ隔テ、痒ラ極 世 シ梁ノ テ遊民二等シキ 簡文帝勸醫人 與書 スルカ マリ

リナク群籍ラ流覧スル井八事二臨テ洋ラ望山が 事モ此所ョリエ夫ラ着バ幡然トノ覺悟スルー ニレテ約スル 意二融通シテルラ本基トナン其後數卷ノ書ラ讀 正道三遍 八諸家ノ長短得失粲然上メ 大抵醫書ラ讀ニハ醫經經方ノ中一部ノ書ラ熟讀シ 如 初學ノ士醫名ラ以テ君二事へ奉ラムニハ如 クナ 涯ラボムルファタ 言 バ學ブベキニハ極 ラン如何セバ 所ヲ知 ルユへ 邪 x 不學無術, 路 ナ 明二事二臨了益辨又其博 7 二階ラント尋思ス リ若徒 レル浮辞 五 二廣博三為テ 庸醫二劣儿 = 關和 可草 畫 = 可 館 如 可

P 11 故 = 醫家 ノ學 能博 = 1 能 約ナ ルニ P

詩經二七 ル醫業二於テ法 ホドナ V バ則ナ 物 7 キモノ 則 11 則 ナキフハア T 当日 ヤアルへ リト 7 リテ ルイン 7 况や人命二 凡 天地 故 = 醫經經方本 特 間 關 物 係

術ラ レルナリ學問ナクテ徒二治 範ナり然 草八三種 學と多ク ルニ世或ハ云學問い治 病 人戶手掛 以此ラ街 ベント此説庸賢ノ 術ラ施 験テ学ファ 術三孟ナン初學先治 スラ バ目 垣古古 ナクメ夜 無學ラ

ラ大法

トナ

=

孫 真人モ譬へ置り其理如 何 假令

ザ テカ ケレバ幾 醜惡ニンテ見三足ズ醫ノ學問セス療治 説アレ圧運筆人法モ ムト云モ右り拾ガキスルモノ、如り俗人ヲ欺キ一己 書ラ學ブ者ノ法帖ナク徒ニ手做 ム手版 也 口 バ大病二臨テ人ヲ害スルー 腹ラ充シム 運筆ノ法ラ識べき聞モ小學問セズレテ療治セン バ何三處テ脈理診法藥性方意ラ識得スルーラ セズレテ拾と書ニテ事ラ辨ズルモノアリト云 百八病人习視心压梁 14 ノ用ハ足 知 文字體ノ結構ラ知ザ ベケレ圧醫理 ノ簡文帝ノ アリ且 ス ルが如 胸 ノミニテー シ 日二百方ラ 中二法 ノ真地ラ知 何二日 レバ書體

風土ラ 語二及 ルニ同じ 業八益十二昔一鄙人八京 八數千人八病者习視夕り凡智業二益十十一鄙人人 尋又ルニ松ノ並樹ニテ退屈セレト各テ名勝舊趾ノ 處シテ其藥性ラ 問八 バザリキ數百里人山水ヲ經歴セレモ遊觀 ケレバ何ノ益アルベキ醫ノ胸中空虚ニレテ 猫ノ少キ所ナリ 輕ン ひ其死生二任スト云 師二遊デ歸 ト谷フ 五十三 7 リレニ京 一驛八如 如ク 二一一習 何 西

り良エニテハアルマジキナレバ智業精熟ニ至ルマデ

間

三人ノ藥殺センハ必然ナリ

然う

游三均少尚其上三何水下聰明八士夕り元初學八時

テ 本意立文ルウヘノ工拙八是非ナシ古今人法則了蔑如 凡人人才氣三長短了り上什么 月五九四八七八少年所十月 ムエへ二深久思と篤久志テ庸安ノ説三註誤セラル り醫ノ真理ヲ覺悟シテ業トスルコソ本意ナルベケ 經經方ノ書ラ讀テ明師ノ口授ラ受テ稍法方ラ會得之 ラ知ラバ益志ラ篤心格を指文專精三勉勵スル井八遂 タル後三病者三照レ多力治療力施レ學ト術トノ間 し私題,專ニレテ人,誤ラバ其罪道ルンラ地 薄り其業成就セザル者多シオ短ナル人ノ出精スルニ アラズ短 心志多遂ザル者多心自ラ我才八長短ラ省テ其短ナル モ解心兼テ治術モ識得ル丁運心其間二急情ノ心ラ生 二於テハ心文技群ナル丁疑 一大成スル丁是亦疑ナン古人モ不為不成下云又業八 小劣レ 熟ノ時ョリ早ク大成スル心アリテ其中ラ時 ハナ ハオノ長シタル人、何事モ速二知覺スルエへ未 ク不仁ノ智業ト云ブベン比故三初學ノ子先醫 萬 ルモノナリ若主ノ長ンタルウへ二志篤カラ ナル故ラアン 工工 蘭マザ ルト精ト鹿トニアリ其故如 并 ラモアラズ只學術人熟 十十七 十各刀五十三 ナシオが短ナル人へ何事 **凡長**十 12 故 与好 ニレテ志 丰 ニモ 何

ザルニ至心故 テ蚯蚓數十條力掘得テ掌中三弄スル 要以業习繼者八是非其業ラ業トレテ修メザレバ身ラ 家ノ子八其好マザルラ好ム二至り好ムヨり樂レムニ 云武夫何以小物,畏此,一如此十一十其人 立ルフタ得ザルニ極レた好マザルフラ強テ脩行スレ ムモノアリ一見スル片八年面色變又其友コレニ言 至心心此の自強人道上古人モ云り一士人蚯蚓の惡 八質性好マザルー故其業二熟ン難心此故二先伎藝 動三成テ急三毀ルモ云り總テ職役ノ家三生レ父祖箕 部 二聖人も習と性上成トノ玉へり假令治 1 數日逐三畏 舜 書 館 7 愧

リテハ誠ニ手ノ舞に足ノ踏ムコラ知ザルベレ又不治 運ラシ書ニ索メ師二問友=助ラレ篤病沈病愈ルニ至 ナレバ遺憾ニテ寝食ラたレテ思維レ其案ニテ効ラ奏 明師哲匠タランフ疑ナン ルファルヨリ漸々二樂クナリテ病人毎三種や工夫ラ 療治スル内二風度覺悟スルリアリテ治術ノ意味ラ レバ外二樂ラ設ズレテ娱三足ル二至ル者ナレハ初 世禄八醫家本邦當今八御時三處之夕 籍古を初ノ内ハ怠惰ノ心生ズレ圧忍ビコラへテ 二息情也べ較又措又研究レテ己二克テ智業セハ 11 革 父祖 3

齊等官較

賢家 委山方梅 謝ス 作文八本社元白韓柳歐蘇が體見得經藝习精クレテ古 業ヲ紹レメ其身ハ禄ヲ解レ仕ヲ致レ山林へモ引籠リ 病又八世三不遇ナド儒者ノ口聲ラ學八尺其儒者 左い無シテ私ノ理ラ立テ飽マデ君ノ禄ラ貪り渥思ラ ナハ書ラ讀三道ノ一班ラモ明メタル甲斐アルベキニ 先王人道尹明从宋朝諸儒人書尹讀テ格物窮理人 ナルナリ若又多病三達ヒナクバ其オアル人ヲ撰と其 ノ用ラ為ス程ノ學カニモアラズ不遇八自ラ求テ不遇 是放蕩不羈ナル惡書生三惑ハサル、モノニテ自ラ多 7 ラ處心醫ハ醫オアリ我ハ醫オナン故二典籍ノ間二志 テ僅二經史子集ノ端ラ讀三少ク得ル所アレバ高 + リ承タル業ラ繼ギテ君思ラ報レ奉ルヨリ外三謝スベ アルフナルニ本邦三比制度ナキコソ恨ミナレナド た云べと然ルニ世禄,醫家ノ子ニレテ書生ノ席三出 テ自分ノ便宜ノニニ志心本業ヲ忽ニレ彼ノ連訴茶香 一九ル華ラ見テハ文盲ナリ都俗ナリト馬ル徒アリ皆 ヤフナレ能ク篤夕此三志ラ立 べ十心を無久父祖累代ノ業ラ廢シュレラ天命 ノ三異國ニハ科第アリテ其才人長ベル所ラ撰舉 ル丁聊モナク不忠不孝ナルラ自省也不詩 **计**加 ル者八道ラ 躁 野島的 レレル 古ラ ク自 云

皆及刀川 弱年初學ノ軍治療ラ學ンニモ病人請に來ラズ此方日 悟り群籍ラ沙湖レテ博開多識ナルモ果レテ何ノ用 人属 ヲ参 ラにルト儒者ノ為ル所ラ學ヒテ本業ラ酸スルトア タリト云い莊子が寓言ナリ今茶香連排,類二テ本業 1 意ラ以テ治ラ施ス片ハ治ラ受ル病人を亦必及其實意 同罪タルガ如し故二初學ノ士謹デ此等ノ輩二孤惑 人モ初ヨリ多ク施治セショハアルマン然レバ心ラ用 ラル、1無ラン1心ョ用ユ 位素餐ノ大罪ラれストハ猶年ラ失とタル両人ノ僕 リ強テ薬ラ與フベキャウモナク鬼や角スル中二年長 し其疑シキハ明師ノ指揮ヲ受ケ或ハ益友ニ尋問シ實 ョリ宗族親戚八勿論知音相識奴婢僮僕ョリ卑賤養斯 ルノ厚薄ニョルー明ケシ真誠三篤志ノ人ハ弱龄ノ時 マジ去ナガラ昔ヨリ明醫良工小呼レ多ク病人灵教 12 ベン古人を學書紙費工學醫人費ト云り大切ナル命 其期ッ失に遂二其志ラ得ズト云エルハ最モ左モア コロアリヤ主人アリ两人ノ僕ニ命シテギョ守ラ ルニー人の博爽シー人の書ラ讀ラ逐三年ラ失に 初訓 ト云圧病人タル者アラバ心思ラ盡シテ診視處劑 ルフナレバ依書冊チナラムフラ求ムル者ハア ベキノ第一義ナリ 一 齊等官鼓 政書創 セ

ク診療 レ氏病證」輕重虚實寒熱變化ノ機 ラザレバ此一意尹用テ其智其質如何ト慮此人差别ア 對心比證八後な八其ノ證三變セン又劇十二似タレ氏 盡スラ習業第一人專要トスベル只管三貧賤養厨ラ多 性質= 不對治法人得失遺心所十分自得又心故二其後病 業ニナルベキ程ハ治ラ請者來ルナリ如此術ラ盡 亦一段人妙理习發明スルニ至ルコアリ惟其病勢ラ恐 愈べク又生三似タル死證下心三定見了心故恐懼へル ル、心アリテ小明案良考モ出又然レ圧貴賤人智同 丁ナク方藥メ處置スルニ滞碍スル所ナキ故ニ醫按モ ル病人ノ十人二王當ル故益ラ得ル丁 三依天診察也小假令面三人見治又心臣等閉三診過 人ノ多少ニョラズ親切二誠ラ盡シテ施治スル片ハ智 ラ感じテ其實ラ以テ傳へ語ル片ハ聲聞漸三遠境ニモ 及ビ治ョ請者多二至ルリ必然ナルベン然レモ其人 宜シキモ 11 ツキ惡シキアリテー様ナラズ然レ圧藥ラ與タル病 人ツキノ好惡二物 テ俗間ニ云 ス 訓 ルニ如クハナン證候ノ始末ヲ識得 ノ三勝リテ病人夥クナル者ナレバ實心 ル人フキ宜り信仰三預 ハラズ後二八彼惡丰者モ人 ニ至リテ 極テ多之如 路書 ル者アリ レ薬 シ法 力

青 岩 鼓

皆一大 治療センハ君父人治ヲ誤ルマじキ為ナリ故ニ初ョ カラズ丁寧及覆心意ラ盡シテ治療ラナレ費五 間三急證發スルーアレバルス輕易二看過心施治スベ 後 ニレテ治是失八八重病二至り緩病モ由豫シテ條忽人 志ラ立置丰實心ラ以方習業ラ勵 自然ナルユへ二致ナシ去が先貧民ヲ施治スルョョン /輕重緩急ラ以テ志意ラ用ロベン然レ 輕病无忽略 トス然レた貧賤ラ以テ輕視心等閉上療治ラセバ幾百 ラ以テスルリナレバ其家生タラン人小能力其家技 凡家ラ起ス先祖ハ苦學數年ニレテ經驗ノフル多ケ 關 術ノ真理ラ得ン丁疑とナン 其面ノ如ク萬殊ニノ一様ナラス此ヲ用ユルニ其所長 モ動スペレト古語ニミュレバ只誠ラタニ盡レナバ治 い最推尊スベント云た人々的得ノ同シカラザルフ 施治レタリル智業ニ益ナン故ニ貴賤貧富月間で病 練熟心其成説ラ奉心格テ守ルべと然した所長了 短 二尊貴人人人治療スル助トナルフ 係スルフナレ ナル所アルハ必然ノ理ナリ醫事、君父ノ安危 刀川 被 バ其家説家枝改山ニハアラチに其 形形 小云 リスー 艾 ムベンダス 念ノ 極テ多シ専貴ラ 齊等官戴 レバ 日

ノ罅ラ補に遺セルラ拾ヒテ用二供へバ家學全備シテ アリ病家ニモ何ノ誰ガ石膏何人其为附子又此病八誰 忠孝ニッナガラ立べキナリ總テ學問ノ道八齊王ノ鶏 説人長短い辨りべキリナリ作去家門ノ是非長短い辨 山三登リテ眺望スレバ始テ其山ノ高低險易ノ勢瞭然 近來偏執ラ以テ家ラナン神馬大夫ノ間ラ奔走入上者 足張介賓が陰有餘陽不足ノ類是ナリ故二古人 トメ目ニアリ此故三他家人説スモ旁求博索シラ家説 白ノ如ク我が住山山ノ形八見サル故へ却方識ラス化 用ルユへ十二一失ナレトスル八醫事ラ識又人人見二 三宜り彼病八誰し然ルベンナド病家ョリ其醫ラ擇 病ハ藥ヲ輕ズルヲ病ニ醫ノ病ハ偏執ヲ病ト云リ本邦 上其無ノウ ラ食スル ヘガタタ見エガタキモノナレバ能々自ラ省ミ、ル テモ亦然り偏執ノ弊ハ異國ノ名醫モ免レザル所 ノ火一盤ノ水ノ諺アルニ至ル又朱彦修が陽有餘陰不 石蔵用が執藥ラ多ク用と陳承ガ寒藥ラ多ク用と三斛 古人 人義ラ任 八詩三不識盧山真面目只緣身在此山中十云ル が如クスペン齊王ハ マ井が人ニラ食シタリン我が醫ノ學二於 1 スル者人識ニアラ 100 一度ノ食ニ鶏数十ラ用 ズ偏執ラ以テ名ラ經 事官 官 截

逆ヲ 罪二陷ル丁必然ノ理ナリ人人身中陰陽平等ナル片ハ ラ書 ルが如クニ見エルハ必然ノ理ナリ其甚シキニ至 平人こしテ異論ナレ偏勝ナル故三疾病起心偏勝ト 父ノ病ラ治スル三至リ熟因ノ病三我ガ偏ナル真武 テ偏執ナキヤウェンタ用エベレ去ナガラ醫治脩行 八此ラ書三筆心南三自ラ誤リ子孫ラ誤ルノミナラズ 陰三變シ又八實中ノ虚アリ虚中ノ實アリ寒三似 住山見他山ヨリ眺望スルガ如ク他家ノ説ラモ探索シ 古人も病ノ變狀一い言ベカラズ醫方千巻ナラ其理 間二八効ヲ取 後世八醫ヲ誤ル丁多シ誠三嘆スベキノ至ナリ故三我 偏寒偏熱偏虚偏實ナルラ云且陰ョリ陽三之き陽ヨリ トナン又其初一二驗ラ石膏三取片八萬病皆力熟因 々二似タル寒至虚二盛候アリ至盛二虚候アリ故 爾後診スルホドノ病者幾人ニテモ胸中二執固 初八一二効ラ附子三獲ルファレバ萬病盡う寒因 進メ又寒因ノ病三我が癖ノ白虎承氣ヲ用ナバ大 ラ路内クハ サスト云り然ルラ一偏ノ見ラ以テ萬變ノ病ラ治 ハ其誤り解ラ費ヤサズシテ知 タビゴトニ其薬ヲ用ヒタキモノ 一分ノ生活ラ計ルニハ足ルベケレ圧君 西京市家 ルベン其偏 ニテ リテ 四 12

凡早ク父三離レ切ニレテ家ヲ繼タルノニニレテ明師 龍八姓霸人寒盛トナン尺位素餐下云りいた却とタル ど治療ハセマジキモノラト覺悟レ又外ョり請來ルフ 中醫書講釈會讀等人席二出した此程人了小聞してじ **電少ナカラズ又一等此徒下初メい同クレテ俄に心が** 藥ヲ與レ圧素ヨリ不對ノ藥ナレバ效驗モナ外病者遂 前治レタル症ノヤウニ見ユルモノナレバ自ラ省ラ自 アレ氏病二託レテ性ズ大罪ダニ犯サドレバ秩禄二離 二難ルレハ病家怨恨ヲ含ムノ色アリテ面目ヲ失上再 ラ橋ムベン若と自省スルーラ知ザレハ遂三偏見偏執 バ心中二喜悦スレ 年脆裏二年的ナク胡亂二方之處之 ルノニニテロ授ラ受べキ人モナク心一ツニ身ラ憂ル 醫治ノ全體ラ明カニレテ病萬變ナレバ藥モ亦萬變三 ルンファルマジト安堵ノ思とフナン起い袋三納メ熱 ズレドモ 醫治ノ運路ラ得ズ偶病人來テ治ラ請者了 モナク孟友モナク獨學セレニモ家秘ノ傳書僅三存ス セント願フベキナリ人然不明一日子二年 レ伏テハ我人ヲ救に仰テハ君父二事へ萬全ノ功ヲ奏 ノ弊増長シテ改ムル「無ニイタル故二只ヒタスラニ マデニメ月回リ月速り空ク年盛長じ一旦勉勵 部 7 齊寄官鼓

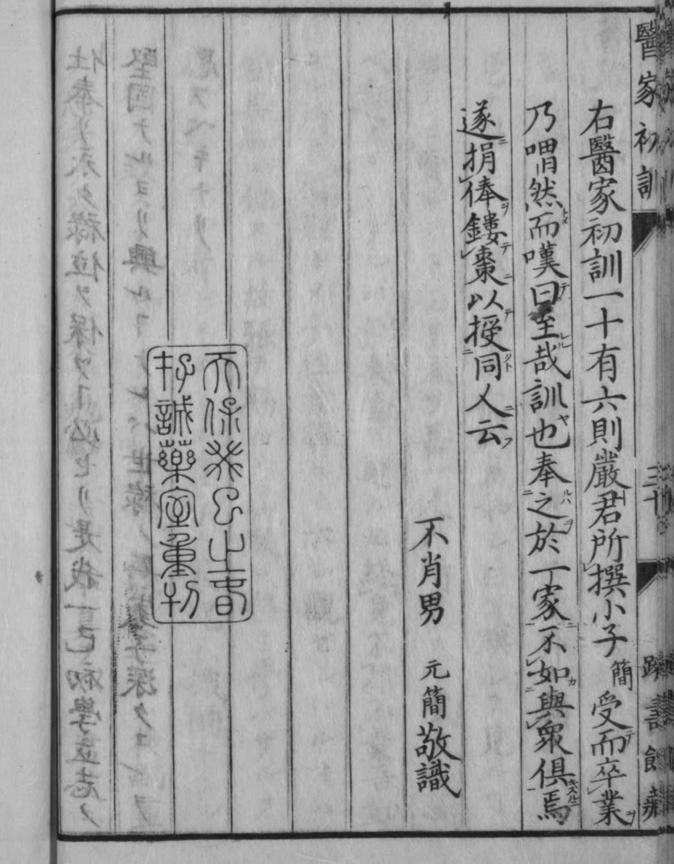
フンキョリ外ハ 醫タル二至ル日暮テ道ノ遠キヌ患へガ只下聞 開中 ヲケロ 師友二益ラ請西急ルベカラが銀人八機笑ラカヘリニ ノアリ此果シテ何ノ心グヤ名ノ三醫者ニテ一方一藥 大成ノ日ナキニアラズ只一倍ノ勤ムル三アリ音王惠 心モ 好ケレ速三良師友ヲ求メ旦夕接談レテ學術ニウチ浸 ナレ幡然トメ自ラ新ムルノ心ヲ生心前非ヲ悔ル 問ナバダレムト肚入テロラ閉ラ席ノ散ズルマデ カヘリ三ザル故二問フフラ肚 シテ學術人間三在バ親上的彌博ク智フトコロ彌多 り他事ナク智業心病人治ラ請モノアラバ アリた畏縮スルフナク再に其證アラバ改メテ如此 二季テ一藥一劑只丁寧反覆レテ處置スベレ假令設治 トノ雲霧=坐スルが如ク益ラ請に疑ラ質ス丁 ンナド工夫ヲ運ラサバ智ノ設治ョリンテ大三眼 學術上達シテ君父無極人洪思 叔微朱丹溪が軍皆中年ョリ醫二志心逐二無比 開 べ朽果ル華ナキニアラズ徒三年長でタ 段人新知力路十大效力奏スルファリ常立如 +意モ明三業ラ敬三群ラ樂三テ心專一二他 アルマンキナリ ズ智業セバ晚學タリ り報レ奉ラ 精學三智學 師二謀リ友 4 1 ヺ 1 目 7

Kitasato Memorial Medical Library

所以い ラレ 吾身三惡臭ノ移リタルラ覺サルカ如心其初ノ志ラ ノ三多ク交レバ平士ノ如久茶香連部ノ友人多ケレ ノ妙境二至リ熟スル了古人二肚ザルベン所謂芝蘭 事ニノ三打浸り年月ラ界レバ潜三移り暗二化レテ醫 多クい隣半易う淫りヤスシ此故二友ラ擇ヒテ交リラ ツカ中途ョリノ廢棄之遂二事成就セザル人アリ然 フーラ要トス常三良友三接談心醫事三益アルーラ ラン1ラ欲スレ氏常三交ル所ノ人又 八たナキ人二交リテモ他人物語ノ中二吾道ヲ助ク 初ノ志ラ遂サルニ至ル鮑魚 三其徒ノ行状ニヒトレクナリテイツカ醫業ラ荒廢 悪キフ氏思ハズノ惡ラナスが如ク醫事ラ廢ス ノ志ラ立ル丁正シクノ學術精專三智業センモ 立志堅固ナラザルラ以テナリ此故二惟堅固 三交レバ醫事二心離ザル故念々タエス 自 トイへ圧見聞校の益ラ獲ルコナク常三平 情ノ常ナレバ鐵心漢ナラズンテハ ノ三親ク常三交ルー久井八是亦其風三化 ク居ル片八吾身ノ香キラ覺へザルガ如し若 心此故二常二良師益友總戸醫事二益 人肆 居ルフクケレ 八世ノ動静二 尋常 年

凡醫家業成りト思フた猶タラズ 學術人聞了リテ縉紳人間ラ奔走スルモノアリ其診視 ナ 心し 君子必久交遊り慎ムト云り 其志意ノ置所ヲ乖戻セン故ナルベン新進ノ士ト云 トレキバ何ノ為三苦學セレ是レモ又實ラ以テセズノ カリノ年輩ニナリ實用三益ナク不學無術ノ下エニヒ 疑フベキファリ實三熟シタリトハ定ガタキ事多ケレ ル人ニノ三交ル片八本志ノ遂ル、疑ナン故二古人 發センナリ此故二專 ラ常々親 トノ吾ラ特はエルス心ョリンコハラ至ルナリ若如斯 治ノ際三於テ深ク意ヲ用ユルフカセント自ラタレ 方三達ス今老三垂トス故二人信ゼザル者ナン何フ診 ラ尋ヌルニ其醫常ニ云吾弱カリレ片學既勤テ名開四 一タビ君臣トナリタル上い忠ノ一字三輕重ハアル タル 全シクノ其治ラ受ル者失治=斃スル者多少其所 リタランニハ中年マデ苦學研究レテ肝要ノ療治ザ 三死スル朝マデモ此念ラ廢スペカラズ ズ手巻ラ釋べ老至ルた 怠ルベカラズ讀い讀小 自 ノ方ヲ見ルニ孟浪不對ニノ不學無術 アラズノ吾知べ其風二化ノ本志ライツ ク交ル友ラ擇 トノ初學ノ時 ヒテ孟 一老宿頗 7

醫家初訓 思フベ 堅固ナルョリ興ルフナレ 皆其風三化スル故強テ勘ズノ其風三移り學バザ 老テ學モノハ燭ラ東テ夜行が如シ目ラ眼シテ見ルフ 孟勉勵シテ心ラ逞メ怠情スベカラズ北齊ノ顏之推モ 北テ動メザル者ナキニ至ル曾子ノ家兒不識闘トア 七智ノ致ストコロナリ如此遺風子孫三治片八後嗣盡 ムル所見楷則トメ子任童雄ニモテン觀ゼレムル片 無キ三賢レリト云り且り吾一人ノ所業ョリ風ラ子孫 忠孝ラ本トノ家業ラ勉勵し道ノ本真ラ以テ君父三 况や世禄ノ醫ハ初ノ立志ヲ堅固ニノ老境ニ至ラバ リ永夕禄位ヲ保ツ丁必セリ是我一己初學立志 ナレバ景桑榆二鱼ル圧終身不措不棄吾勤 八世禄ノ醫家子深クコレラ 成



醫學館梅藏板 衛生彙編 黃帝蝦養經一卷 本草行義二十卷 此經八針灸人書之漢代人物夕儿一疑べキナキモ人也 故二漏載スルモルアリ今刻スルトコロハ 古人珍編十川然二次出生然下八八 唐以來彼土三絶タルが幸ニメ此方, 此書干彼邦二流傳 初集 123 仰書 少夕李東壁モソノ原本ヲ見ズ 朝鮮人醫方海張方以 萬寒豈兴平 今二有シタル奇 宋板ラ祖トン かルト 七

校スルニ元板及心諸家所引ラ以テスルモノ也實三發

明スルフ多ク治療ニ助アルノ書ナリ

嚴氏濟生續方十卷

嚴氏ノ書い明約二メ世二益アルフ人ノ知ルトコロナ

此續方八前方八未建习補夕八二人為論良方亦

カラズ世三久ク傳本ナカリンか近來金澤文庫ノ

古鈔本出タリシニ因テ朝鮮ノ醫方類聚ラ以テ

校補ナセシモノナリ

醫學館御用御書物師

萬笈堂英平吉

活本石町上町 店萬笈堂英平吉郎蔵版醫書目録

匱 要略解義

全十册大本

東都醫官桂山多紀先生歷朝諸家人說尹集又及千金外臺等人書二引

トコロマデノ共同ラ考校シ且先生ノ按ラ各條ノ下二附大金匱ノ諸説コノ書

全一州以本

東洞吉益先生著ス所之此書往年田信巷先生校正上木又是太了多

東洞家八分量考习附之重訂補刺又

全一冊 小本

方

本堂醫事說約至金二冊小本一大人果然人并 翁常用人方之臨病人機愛コノ書ニツキタリ且丸散兼用方書之 此書八東洞先生作三天金匱傷寒ノ方三機變切用アレフラ記し東洞

断言等ノ書既二行ル、トイヘ氏藥論病論ノミニテカラカク今コノ書ラ 此書い香川先生常二坐右二於テ驗セン方月集録又往二樂選行 香川家ノ四利ヨリガメ先生ノ変方漏スフナン

西川國華先生輯

仝

A

同作

全

王湯安神散小兒家二、萬金丹龍角圓古方家二紫圓備急圓人 此書い古今九散方方集五先大人家二時應九一粒金丹婦人家二龍

類ヨリ始メ各家ラ部類シテ且諸家經驗ノ奇方ヲ養末二附ス

小本一冊 同作

此書八外科二用心所ノ丸散并二膏藥ノ方ヲ集ム外 水都医官 科方 最第一之

女夕出ス傷寒ノ方此書ニモとってと 各條八下二茶方力著入附銀二八山田公珍先生八温疫鞠 此書八傷寒發病人初日ヨリ五日也又五日ヨリ十二日也上初メヨリ世日 一川ラ分り勢 カラ著之其間二、或い下利後発行後ナー色、り證フ者 シアラ 発 総以後移

相方合う方書三冊心本

医籍中ヨリ教急ノ奇方輯小實二先生ニアラズンテ此書ラ作ル事能ハズ 東都醫官多紀先生輯和而之先生人博覧廣才世人知下了已此書古今 A. 大田城門等

四方ノ医家必不禁着中ニカクベカラズ

樂雅寒若

此書ハ今ラ去い一殆ド七百年前り物三ノ晋唐医書冊四部ノ中ヨリノ軍捷 抄一一冊多紀

書多クハ今二傳サル本ニノ十金外臺ラ讀ノ大ナル助トナリ古方ラ講スルノ人 カラアツメ急病ラ治スルタメニ 撰レタル書之其方之ナ奇 歌ノ方ニノ且所引 書ナリ雅忠ハ日本扁鹊トイハレシ人之 必

此書小專力窮解降壞或八旅中十下医者二处十处三方急卒ノ病アル片八些二テ 多紀藍溪先生著

乾ル、フラ愛へ作うしと書ニテ平假名ニテコレラ書と一二味ニテ 致をん方ラ

卫ラビ尤手过十一草木蟲魚ノ茶ラ事 マン其形状ラ関シ又縊死彩死等八其

請り毒ニアテラレ犬人咬を動ノサンタルナド或ハ火焼ナドマラモ如何ヤウ俗人ニテモ 手術ラマガキ又灸点ノ方七姿少其四ラ出し大人小見急ナル大病ハ言二及バス

此書ラミル片八其療治力少一目ソシルベク誠三医者ラ待ズン命ラ数と苦ラ免

ルーラ得し、故二人、不時ノ用意二一部で所持セズンバアルベカラザルり書く

而ソノカハ勿論古今ノ方書ヨリエラビ出シーへ試験ノ良法ナレバ医家ト云圧

当コレヲ鉄ベケンヤ

多紀樂窓先生著

古来傷寒ヲ注スルモノ多ハ古書ヲ讀ムノ法医書ヲ講スル式ランラ父多

意ラ用テ惑二改成用ラかへ或い紙上ノ空談 ショテ賞用ニ益アラズ先

書八四 ノ注家ノ内 ニオイテ其長ヲアラビ短ヲサリ又古書ニョ

與同ッに 上具 疑シキ者 姑り諸 説ラ引テ敢テ腹改セズ事ラ文理確當

義理必平ヲ要トレス古来医書ノ中ニライテ仲景ノ義ヲ敷行シ仲景ノ

ヨリラ巧ナル療治ノハナン或ハ付景ノ方ラ好り活用シタルコ又付景方二加減え 方又仲景ノ遺意ラ発明シタル了凡傷寒論ニアジカリ治療ノ助ニナルフハ

每條一附録ノ臨證處方ノ使トナ人實二傷寒論ヲ解シ傷寒論ヲ治用ス

ルノ第一ノ書ニソ古来注家ノ企及べキニアラザルトコロシ

三卷二冊 同前

此書八寸関尺三部人位ョリ跌陽人迎人診法平人

人上法二十四 脉 /形状 婦人小兒,脉及上八怪脉二至ルマデ古来脉書人精

英ラマラビノセスコレラ古経二後シ實驗一タ、レ以テ按 「此書二ノセザルト云フナク古来ヨリノ豚書此書 ホト切正ナルハナと賣三医家 語ラクハへル豚ニノダカル

Kitasato Memorial Medical Library

順三卷附録 三册

書八先生ノ隨筆二ノ神農當樂医學醫科ナドヨリン何ト云了 附録二八募原居が新ナドノ詳及ラアが医書古来ヨリノ疑義ラ

ノコレマデタ及サスフラ見イダシーく改證ラナン医学り助トナ

カラザルコニメ無益ノコナン世ノ好テ著述ヲナシ博ラ貪テ雜駁ニナ 積ムトコロニシテー時ニナルモノニアラズ又何し王医者かラスンバ

一同日ニソ論ズベカラズ誠二古今未曾有ノ書ニノ特リ医学ノモナラズ凡

写者此書ラミバ益ヲ得ルフ少カラザルシ

内經い先生,家學ラ此書り精密た丁世人ノ能知下己之况や今刻スルモノい先生 六卷 同前

晚年ノ定本ラノ政證詳密マタ餘温アルフナレ殿町道ノ大本ラ明ント欲生ノ豊此書三

方學領

此書い方人祖ラアゲ四君子湯四物湯ツレニ加減ナレダル類方ラ焦タルモノン一々出典治

一等下分王良塚ノ小青囊施清然ノ祖剤ナドニ比セバソノ精博数倍ノ実·茶龍

中鉄ベカラザル書く

珍心得 府珍輔要方 麻疹祭類 各一卷合刻一冊

心得八先生数次經驗八治術可詳三國字モテ録レタル書十一輯要方八諸家

名方ラ集ノ管禁類い諸説の要ラ摘タルモノニノコノ三書アリア治珍ノ事格芥ヨ 易シトイフベン 干於改成海線中遊三作者人獨歷內的

此書い儒書ノ中ヨリ酸ニアッカリタルフラ摘出し類ラ以テ質茶録レタルモノ

未曾有人威毕了其益甚廣之誠二不可無人為實十月 「文證治方孫タノフハイフ三及大書目殿西南並三詩文/ 一八丁十七先生ノ博覧古来殿西家以自以十八此書亦天下

擦陰先生文集

五卷

先生ノ文八敢テ巧ヲ求ルニ意ナントイへ下能俗智ヲ脱ノ自ラ雅麗ナリ且醫

書ノ致證證治ノ論説等發明スルトコロ多ク其中ニアリ

白巻 多紀柳沂先生著

此書八朱竹地經義考二做了古来殿西書八目録ヲ類列レタルモノラノ歴代

史志及以百家ノ書三就テ巻帙序跋ラ盛が並二作者ノ復歴ラ打し存佚

木見ラ表と書ノ住否道ノ源流像然トノ明ナサ

三十卷同前

醫ノ事八病名ヨリ 解発十八十二十七生博ノ及吸ラナレテ正俗ラ計し具

同ラ辨シテ以テコレラ約ニ帰センムルノ書へ

五十巻同前

此書八諸家治驗人巧 妙ナルラ質祭録レタルリ古人臨證處治ノ曲折ラ

レコレラ今日三運用セントスル此書ヨリ

經疏 證

難經八注以順多了上在大抵迂遠三人且暫古三球八今先生諸注

同前

ナルラ押上更三及證ラかへタル書ラ練窓先生ノ醫経諸解 北り

ズ大アラザルモノ之光上八番

名醫彙論

五二本并三 八十卷 多紀茝庭先生著

古人少病論異同ノ説悉ノ載ズトイラフナノ一病就テ名義脉法原因證

候治法ラ析タル太成ノ書

寒論述義一人

此書、輯義ノ餘意ヲ發明ノ三陽三陰ノ大義変壊ノ諸候三至ルンデ類論 列ラナン付景ノ條理ランテ用了然タランノ治術ニライテ明切かれ書

上卷同前

此書い古人傷寒う治術ニライテ切正ナル論方ラ類録しん

書 發 三 林 行 都

科指南 此書、賀川氏二本キテ國字モテ其手術証候治法等习演 説ナンタルモノ之先生八產術二妙ヲ得タル人ニメ数十年間経 寒六經志 其論說至ラ際切二メイカナル初学トイへ用院やスカラシム誠二 験スルトコロヨリメ質川氏ノ未速ラ酸スルフマタ多シ且 良師ニョラズメ産衛ノ秘訣ラ得ルノ鴻實ナリ 家ノ精说ラ摘出して致証すかへと聞ラ学ブモノラメ早ク正路三人とり秋快 此書以病因診察辨證/要領用菜治病/法則方削某物/理蓝了一 三陰三陽ラ以テ更二細分ラナン一百十三方ラ配列ン方で上因證脉治ラ褐 ラ羽翼ノ経意习擴充心事實三大有用ノモノン 利ノ大意ラ示タル書ラコラ楽能中三載テ至テ便利十七書十 二卷 多紀蓝度先生閱 大牧周西先生著 一卷 加藤循龍先生著

夏

道道之於物小而無內大而無外 有物有則物待則以行則待人以 成則成於一後物於萬絲之間之 月数 存于不存有機動于不動於 廣品類之類四民百枝之蘇滋 乎文字之不可以形言語之不

言云古人之糟魄已矣嗟嗟否 追乎先生可愛為之序目古人有 應之日匪道弘人人能弘道斯 而不朽 哉彼其言道可謂盡矣夫天 斯道在斯道而斯言出斯言 則豈亦知来者之不可

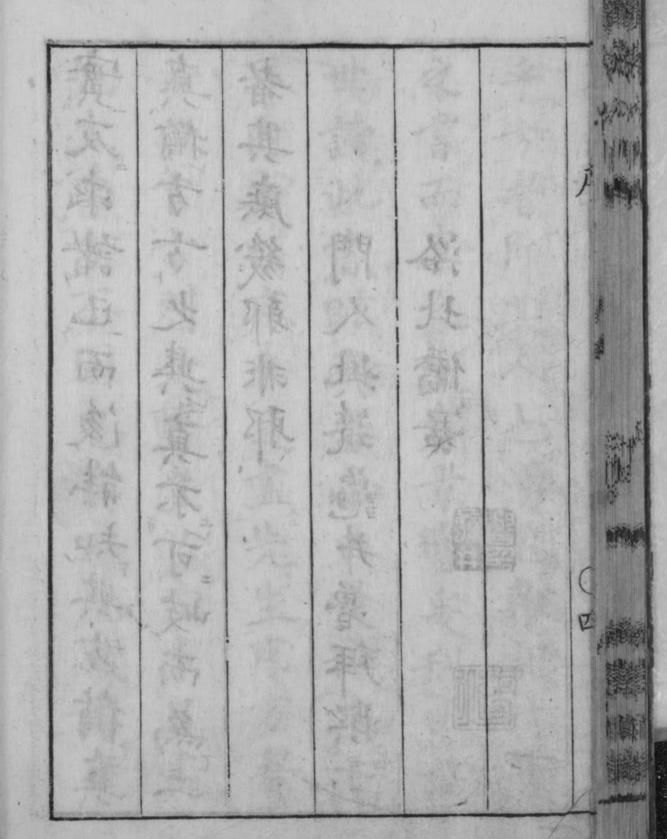
馬矣醫亦道之分也 乃方乃真乃 鸣辱真乎難知必也在向方之始 在於其人知醫之有真而後其 有法之可體也此之謂道之真 而後未始有法之可體亦未始 後日古四今軍然二而一二而

可以傳固矣故人之志道要先體 其真要之有方要不得方毫髮千 里其真耗焉其真旣耗古先之籍 百家之言一無不放經到是者若 得方則萬荒之言尚可釋焉耳 開月之見左右皆真左右皆真

實及求諸巴而後能知其方猶真 真獨方方之典真不可岐而為 者其無幾耶非耶 北流龜井曾拜撰子

先生學方不圖思真不是對諸事 之書而真之随存景響爰刊公世 乎方者即其人也湯遊雜記言方 耳內省則或未是盡先生感方者 讀此書或者必曰是神其言 日言方則是醫豈以方未是盡

上自生工作, 一一個一一一個一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	5	工一回艸魚年邁逐精羅大經問其有所傳乎無疑笑	不必觀也陛下應馬萬匹皆臣之師也又宋魯無疑	為方技也唐明皇使画士韓幹觀御府所藏馬幹日	明鏡而辨妍與也不然則雖讀盡信萬卷之書無益	自然圓熟也而後取漢唐以下之學書讀之則猶懸	事之親武之事實若五年若十年沈研感刻不休則	凡欲學古殿方者當先熟讀傷寒為而後撰良師友	赤馬關獨庸卷著	漫游雜記



者于此醫學其一**巴問其**症依審其、經歷診其,腹脈 晝夜不厭又恐其神之不完也復就草地之間 知氣疾而後須能歷可黃連可为藥可甘艸 妙契不可言而諭也不可筆而傳也近世任古殿古 だ是始得其天此二人之言可為學器之元龜 附子可太劑可小劑機宜僅失則其病不 謂古醫方通本也故其方約而中何謂通本有 探討共意之所存不過張大門戶欽 不論因或日藥無寒熱聞之則 小人殊無老實之態所言所行皆悖 慕勢利工 明明

目豪以為人無復我加矣遂侮弄甘遂巴豆設治 遠而過日也持重者常也逐機者變也能逐 驅隨連遭則遽若老狗猫兒垂首搖尾乞憐於 飛翻歸家鄉 偶遭遇順境產得痼疾數人則振扬 療之道二端日逐機 随非迷惑而轉方也所謂持重者病深則治 為古醫方之徒事師不過一二年其中未有 遂使 重能持重則失逐機難矣哉為古學方 從前集毒之藥聚翻爲養榮益氣之棲宅 世人謂古學方有 日持重所謂逐機者病移 害於世益不悲乎 미

レニロカ

於 15 終於拙出於思入於 不 思故 巧思極

祭 三口

神 妙則自然自然者不可以巧思得 不可

到 可離巧忠而得不可遺緣月 而到

為古毉方者運思於傷寒論以病為師曲盡其

之病現於目中大而後應做未前治未

小然巧思不熟經歷不預病者至前

傷寒論足矣

事於古懸方者其人

勢利

不集於心

则

亦

然隱呼身身哉夫傷寒有萬病萬病 寒

謂

傷寒論治

外那天

下

無。

加

為

參究 始 可治傷寒始可治萬病况一握 職 珠 於古鑒

則 金外臺宋元遼明 之學言家說皆 為

拗正統 歸則九夷入醫悉受其正朝也

冷齋夜話 日太平有日者為市井凡庸之人 課無

中至為達官貴人課則皆無驗或問之答日 無

見尋常 則據術 而言無所 緣飾見貴

挾奇 往置術之實而務為設詞 添加幻 **恠欺世誣人者尚** 其 不驗 知

Kitasato Memorial Medical Library

天壽安危者乎今世之聚其心多不潔而欲

其技之精妙猶向西見東矣

臇日越人能知可起者起之夫諸不治之病雖

第一義論能知不治者而後能知治者能知不久若 百端終無益故余以能知外者與不治者為醫流

而後能知太者能事畢矣

英雄 隱于鑿下固有故矣夫毀下者無素對者之

也不任王侯自如可以行意苟無素封有父母

雖 剛明之臂者高队養志盖可得乎不擇移

古有斯言而較之出處進退必以其時者斷然

111 矣余多觀當世聰辨之士或老于 講 官 一或因

耕 鬱鬱不樂者。無七不處諸此初也

邪輕症以桂枝湯可也以柴胡湯亦可也至于

車

之症則大不然余觀外症未太服柴胡湯承氣湯

過經為壞症者不勘登可不慎乎

初發尤可鄭重發汗諦視毒氣集門中而後可

一二自脉沈數巨里如奔馬或心下痞鞭者皆

醫生病疫惡寒發熱頭項强 頭痛 如 割。

之歷生可延作大承氣湯與之聚生以為余言 藥氣不行醫生心又以爲雖行大承氣湯傻不下 恐難起呼親故屬後事苦思萬端氣鬱結故 數日之後腹氣復津液調治之可也而傍議紛上 **応甚以自茶盞服新汲水五盏卒然而厥家** 夜煩躁不能睡余日脈數痞塞益甚大傻不通經數 典新汲水并行大傻下三行最後見血 **與來呼余余方食吐飯行旣到其家則厥浸愈它医** 通須先吐醫生心不服於葛根湯方加枳實五分日 過峻 五貼汗出如流不解脈數痞塞愈甚完穀 其是 起恐懼發在它醫生皆以為疫毒轉傳 視聽不正以少許為許多又以為 已解狂自 延一舉生來生日是非疫狂也以大劑 可治 則恐變生請待三五自進一醫生心 大承無湯無益今雖屎不定鞭須先其時 黎明急來叩門日 三四輩圍繞一坐医生 加一片骨十二支進之子日腹候 狂而已雖然 在依疫發愈必 白虎湯 . 視予 血下 少許 心寫 白虎易

下痞塞請

余余月是疫兼氣數日之後

大優難

堪熊膽之慘苦乃以手摩塊氣息微死々匹煎朝鲜 既之數次益不可余日是九臟失 位置開闔將絕 五分日暮省人事數十日而全愈 人參五分流之頃刻甦其作人參湯進一貼每貼參 外請來急診余直到診則四肢冷厭機轉悉斷 十一 寸有微暖一塊逼鳩尾它 舉生先到者執熊膽 只心

年吾子千里來見我事畢我少見竹林生華其空生 休三不能休年追六十始見允於越南北人今又 十一而為豎知有一子和氏試汗吐下技掛人不信欲 廿一之越前見與村翁受吐方翁年六 十日我

窮而益堅老,而益盛也余歸於越前米瓜蒂於四方 我得吾子猶竹林生華我死期不遠矣隱呼 可謂

悉不中用唯越州所產可其吐力耳翁而生其地意

不天子

凡盤生無師投憲章之事親試病者多年自然發已

見者往往有之較之徒守師法不經事之徒則不可

同日而論也

参岐相公院教於

先著鞭者乃謀其親在一對南錢壹貴文執調於名護 後藤昆山幼而寒蜜慨然數日我為儒耶難上伊 齋我歸釋耶難兄隱元無

已則醫耶無豪傑逸太之

屋玄毉玄髮以其資薄不合家規不見艮山激憤填

古壓方之開祖矣

輟耕錄日宋季參改相公鉉翁於杭將求容貌才統

兼全之妄經旬餘未能恢意忽有以美奴者至姿色

固美問其藝則日能溫满左右皆失笑公漫爾雷試

之及執事初甚勢次略寒三次微温公方飲既而每

日並如初之第三次公喜遂納馬終公之身未當有

過不及之時歸附後公携入京公外囊索皆為所有 因而巨富人稱日奚娘子者是也吁彼女流賤隸耳

事精至便能動人亦其專心致志而然余窃悲吾

它分志於勢利之途也較之奚娘子專心於一温酒 從事於古醫方不能研精於經脈藥石之事者無

以致巨富間矣

有一婦人每年一產悉不有或好于母胎或產畢成

乞治於余余按其腹有巨塊中脫築築乃與寫心之

方寬其中每月二次灸七八輸及十八九輸五十出

堅制房事日佐薪炊如此十月臨產腹痛一日無他 唯新產見一四色青黃呱呱不發於是急取大黃甘

艸黃連三味下黑傻一日夜面色變赤啼聲徹四壁

遂為好男子矣

膠 痰升許臭穢物升餘吐了取大黃黃連黃芩三味 佐嘉侯家臣某年二十五左臂療諸毉不知其故經 不愈余偶西游到長崎其者來乞治余望其容姿輕 夜共翌診之則脈數腹滿大减 之峻寫六七行至晡時昏眩乃進糜粥養之熟眠 年不愈廼往于長崎就外科某以阿蘭法治之 傻祕結舌乾氣促喜怒無常好淨潔陰兩幕夜安 而晴日晝間暴熱躁煩而渴余以瓜蒂散 如常而徐察之則其面過赤其脈洪數其腹堅滿 延作,黄連白虎

長 經數日秋間浴温泉二十日毒氣大發骨節如刺編 斯除其七八而左臂未全快作一百日劑而去矣 城後六十日余亦東歸道佐嘉宿其者家再於之病 進之兼用濕漆九居三十日病减半先余歸于佐嘉 身腫脹不能起作追遽而還家過十餘句經二毉師 手不治其兄移居在赤關就余謀於是舟楫一日 訪其居男子不出一室百餘日脈數氣促夜夜不 門府一男子思下疳脩治不順如愈如不愈在英 目允瑩然常懷悲愁髮亂面腫潰爛如桃花新發

於其,腹脈則膿汁塗手廼作,再造散六十錢三番湯

發於是遽服前方從秋至冬連延越春夏漸 多毒不日而再發不信脩養有問居二十日果然再 散毒不可盡毒今之得愈非全愈散而已編身猶有 禁且 心距已不遠得躬辨供養之事非分之幸也置莫有 速治之術乎余日有廼作五實升如法服之二劑而 得愈既而至忽期無僧對實陳佛飾供香火一 退籍蘇徐静謂余日今兹七月十六日為以父大祥 事竣延余喜甚余日吾子勿太甚悦乎五寶丹 斯典之日後十日間須 日穆物下 且亦七行又經十日往再診病形生 服畫十日後 力來气

何愈根堅凝者未散余日是餘毒未盡 籍不安語言失理顧王禰帝余以三聖散吐之二 男子患無疾左右脈洪數心下痞堅太優燥結寐 毒急急難除如此 參連白虎湯二十餘日而全愈 服又一年已上三十餘月而全愈隱呼溼毒凌 过出合于 也宜益服前 巴

東手其戚家某在產而來請余余到診則與目

不食時時直視如視鬼狀一日厥逆而脈

有一男子病時疫經汗下十餘日諸症不减譫語摸

機轉悉絕唯心十有暖氣一塊橫斷上十

Kitasato Memorial Medical Library

湯進之語言既出未省人事其明又與熊膽監 湯如前如此七日病徐徐而退日啖薄粥 數日得愈斯兒病非重困危篤之症諸医不知其 腹 以小刀開牙關灌入項則而蘓息廼作小 裏少小有痼癖使邪氣不發舒徒攻致率暴之 +

复也

馬脈 急來請余余乃到診血益进出冷汗如灌巨里如<u>奔</u> 男子侵暑耕率然 烈火於尉斗中自溼紙上,熨之二五次血休, 如怒濤廼沒杉原紙三枚於冷水以盖其百會 **断血**一日夜昏眩不能起家

全愈 服三貼經七自兩脛大腫與瀉心湯自若三十 然暈眩若發 不能食飲於是作 大黃黃連寫

某造余廬請治余到診滿腔如盛后自心下至上 波買人泊舶於尾道金章魚中毒累日不解 到赤馬關易醫三病勢猛猛烈命在日夕客舍王

猶或可 焦黑余呼主人問日斯人平生無苦積塊乎日有 腹紋痛不可觸藥食并吐不留此一子其脈緊數層舌 是滯食激發積痛也先下其帶食隨調其積痛 唯連延經數日焉爾 她作大 劑大承氣湯

苦寒、攻則痛益激也 再得愈舶主之滞食不吐以瓜蒂者知其聲氣有 減半舌胎皆太 塊如活動者状於是與附子粳米湯調之三日腹痛 瓜蒂之毒也既下後不進以茶連者腹氣竭之 數十行腹脹悉除絞痛益劇當其心下有一戶 日啖薄粥一盏與粳米湯 一百日在

病勢緩者外生易審勞療膈噎鼓脹之類是也病勢 與村翁日癲癇服吐方、全余四歸之後試之不啻數 一人僅愈一一人祭生之安誕雖者何如此可恐

枫勢是隨城利於命在日子

急者,外生難預傷寒麻疹痘瘡之類是也醫人須勤

感則明决診候之機 小少多客氣施治方於不治之病耶 凶暴之名

少今錄其一二廣陵一女子病咳晡時潮熱淡 肌肉脫落脈數無急而食飲不減平生千里需医 紅

乙治先師時適余歸於越前勸先師吐之快吐數升

安震 紀五十餘食飲一切不通日飲醇酒三四盏容恣枯 一夜諸症悉太二一日而成又有一男子病噎车

數則吐後一日食飲復常書間忽然而殞又有! 但 坐吐自沫精彩瑩微夜夜不睡余與二聖散快

女子病鼓脹腹皮、彩射人竭力推之空洞無物大

職物 進之襲被褥耳汗余坐枕上時時 新息奄奄語言蹇滥余調一<u>仙散五分於藍汁進</u> 類鄉胥之病唯腹氣頻堅實以一<u></u>一個殺一錢和自湯 自旦至夕不吐勺飲日暮啖薄粥三桃氣韻 **从急頭魔者末三分徐徐得解又有一賈監兆** 傻不 死又長門 利 數升 一口至坑不下不吐手足微冷額上生汗脈動 利 優斷 又 啖頭健余調三聖散 以雙紫圓三分下之數十行其明大優 一鄉胥病喘數年身體枯渴腹皮迫急 不下腹脹减不足言不日 進白湯以雞翎探 一钱於產 如故經數句 汁進

者病深不屑藥其三者及之促命期施治方無益 也常觀一婦人病乳岩者漫然 股苦滿其脈沈遲而欲鄉與苦瓠穰武分吐之 時惡寒如將再病者按其腹當心下有畜水連 治方 温 湧黃水數升其翌日無字豁然飲啖復故 女子疫後數日困悶不能食眼睛 以短促其命期不若棄置待盡 而 姬患腫毒左肘 歸 五人者其二 腫起如傳饅頭編身無肉 者虛贏 不為意經十五 堪樂魚其 不和

歌

恐期毒鬱城 腹氣堅實雖危不至外今外症未散而用二黃湯則 减半於是作渴心湯與濕漆丸併進三十日覺膚革 物編身發紫疹陰門突出痒痛不可堪而脈數氣急 乾血攻中也廼與濕漆丸壹錢十餘日大便下臭樣 骨節疼痛腰背冷月事不下盖得之濕毒壅於經 數氣急咳嗽潮熱一與傳屍符審問其病状比年來 令脈絕医將用二黃湯余止之日癎以痢初頭發其 有見五六歲病,天行<u>朝二日</u>而發驚癇直視擊急身 生肉咳嗽潮熱徐徐而退約二月許而愈 而延數十日數十日後腹氣虛竭癎

有一青女日日卒贩而外約日數十次不能食五穀 發則不可救今日之政唯須發徵乃以葛根湯發之 菜湯下、生十余頭畢作、大黃黃連海心湯與之居數 易医十二人不治時醫莫得其解者請余余往診 日灸十五節之脊際十五壯無它異其明十六節壯 日是氣疾也格在胸中病减則病形現腹廼以鷓鴣 **共脈沈遲其腹如張幕心下不痞臍左右無癥結余** 一倍其翌十七節壯數二一倍經數日卒脈不過日 用熊膽經五日而痢愈癎不再發

一發益進寫心湯灸脊際自第一

一節至十八節數

日而全愈

發四五次不能數步徹夜不眠呻 睑聲開于四隣 有一婦人經水五十余而不斷其至也每月十四五 口血下三倍尋常之人面目黎黑肌膚甲錯量眩

沈細其腹空脹心下暨肚腹各有一塊堅如石盖

敗血凝結震蕩鮮血也余一診日腹力虚竭積塊不

攻與滋潤之方觀其動解而已家有一一子怨請

唯覺暈眩僅减又數日其左足發毒腫一日三五次 能乃作當歸建中湯日服一貼經五十余日無它異

暴執來太家人驚請了 整定 定整於為無疾與二一 黃湯

日許量眩大發卒脈欲外於是遑遽再請余余

無別一方可進也服建中湯數百日身覺滋潤徐 可攻而攻故有斯變斯人斯病除當歸建中湯

可艾炷於是再作建中湯與之居牛年量取不發日

4六元無慮三十七九每月為輪次終則始與建中 一數百步血來减前於是灸脊際日三四定漸增至

湯自若一年許而血來减半面目肌膚生津液經

年徒步沙山河詣後筑善導寺 · 贅婿新婚後數月病暈眩隔日如血咳嗽朝熟 一診日其腹氣堅實也

其脈

弦數家人悉謂腎勞余

决非賢勞也審問其病因平生階飲酒過象比年來

為舅姑見制絕盃酒故致氣火鬱蒸運與大黃黃連

瀉心湯三十日而全<u>愈</u>

喘息輕症置將發者吐之隨因施灸藥則可治但腹

系不<u>堅實者謹不可吐香川氏藥撰有服</u>蛞蝓法余

武之往往有効

山東洋常治河漏停滯者益進河漏以吐之是當吐

方未講之時其胸間旣有吐方

傷寒論日嘔家不可用建中湯山東洋以建 中湯治

電蓋懸斷其人別無一方可進也

癲 者灸藥得所則十可治四五至受之於田胎者决然 癇不治固矣但男子情想未發者女子天癸未至

不治

乳岩不治自古然而紅色書中有言日其初發如梅

之時以快刀割之後從金瘡之法治之斯言有味

雖余未試之書以待後世

纤河天民氏日本艸毒艸部可熟讀

學豎方之人其中既有得則心通百技之會故對絕 藝之人則雖琴棋歌倡之末隱然知懼也承蜩操 日矣蒙叟之言

舟

或有言容水於無微則其鳴淅瀝半則置號滿 乎無聲凡才德技統之士學未熟則多言强貼自視 甚高涵養旣極則神間意定湛乎若空 則關

身處五民之外或可貴或可賤上陪王皇不為榮下

伍乞兒不為房可優游以平歲者唯我技為然 而自

家豬膽通壅滞療逆氣功不讓熊膽能膽多疑似物 非有確乎不拔之操難矣其不為油滑传諛之人

非精於鑒賞者不能辨也

朝鮮人參潤枯渴下氣其功過諸藥近世主張古医

方者漫謂朝鮮參制焙之餘其力不過芳姓之產可

冤矣臣上補益延年之說今古之應套風事之

實不足掛諸齒牙也

南蠻人試肺癰疑似者法貯水於器皿中使病者唾

中膿沈唾浮有膿者為肺癰

淋病諸疾侵道壅塞小侵一滴不通者灸陰莖頭中

央與陰莖根極處正中七壯有奇効

南蠻人能審雕頂之分雕為易治疽為不治今世

者乾癰者張疽者脂癰者紅潤疽者紫黑余受其法 羅爲大甚危篤之病者不知其别也夫癰者濕疽

話 事實果然無差矣

六分或七分余日是過用不耐其毒於是再作桂枝 毒長服下劑余顧医生日此証極宜附于與附子 附手湯附子每貼一分或增至二分一日而利斷數 二劑下利益多医來詢余余往診其脈推之無力其 十行其舌無胎不好飲医以葛根湯發汗二日下痢 止余惑之不知吾子與附子約幾個医日苗斯或 如至實而中氣不充因審問其平生言頻年病 而復故 休與小前胡湯下利徐多於是作桂枝附予湯盡 一男子病傷寒發熱惡寒毅肉不失味下痢 日.

浴後中風發寒熱畫氣丹攻滿身暴脹兩傻獅 氣急脈數不能移一 步請余余謂家人日斯 恒灰不 赤小豆湯一十餘自而全愈 男子病疥癬以散藥摩擦數日 明又與備急圓利十餘行毒氣漸減瘡浪後膿績 非峻攻之藥則難爭鋒與備急圓五分 明作東洋先生赤小豆湯服二大盤又利二 何 愈後 作,禁湯冷

上轉旋日白如此一年時医不得其解悉言魔

余余到審問其病形飲啖過常太慢秘 後後

男子常日我眼睛吐絲使家人取來

一環就其

黃湯愈矣諸氣疾現怕狀者大概皆如此 這也麵以瓜蒂末即快吐五次於自虎湯方內 根三一分黃連二一分與之續服六十 寸盖得之其性多媚其夫多情常懷鬱悶 一女子日言我面今日加長數寸我面今日加短數 月 唯心下輕塞推之難徹底壓頭抵當九漆濕凡數 所不 一一次發大頭痛樂食併吐余於之其腹脈 得之數年來失經紀蕩家產中心鬱結而不 二十餘歲月事斷不來年年肥大腰帶 來乃 以瓜蒂木壹錢大叶 餘日而全愈又有 共冠按 加道 圍

六次後十一日而再與瓜蒂五分又與抵當湯 常頭痛花斯而退 腹刺痛代用以九日二五分二十餘日而經水來如 見識為障牽强附會不少其人與著書下艮 病因考絕無矯飾之言可謂人豪矣至于香川修華 衣醫方之書除仲景傷寒論不許偽安誕者千 腫物以掌按之有家築之者不治也 鞭寒 减 眼之士則不能辨其端的也煩視艮山氏 半又作抵當湯與之數自太優唐寫日 如期 Ш 等

傷寒論日。傷寒六七日不太傻者急下之因承恩湯

是與用小承氣湯處屎之輕否之章相表裏而微之

事實則傷寒六七日不太傻可急下之者十中有 加己其它下之甚早後為康<u>症</u>者不少醫豈可不明

鑑乎

傷寒論日凡病若發汗若吐若下若丛津液陰陽自

拉馬門大

和者必自愈為斯言者千古唯一家而醫下治方之

所以先鑑其病者吐下後其陰陽血脈可 和與不

不可不慎也以出一五公三十二節日面

病古稱天刑其不可治必矣雖然謹喜怒遠房室

蔬食菜羹則 門掩應終身者十中有二四黑白瀬響

手足指梢拘擊睃削者皆不治矣眉鬚隨落面身或 隱起或腫脹或如紅醉或班點如楊梅瘡者施治方 也水产不能原水 茶沙湖

河豚魚毒者少覺懊惱須直探吐急服藍汁

策前的浦南北其民小有傷則煮鯨油途之若納 稳物少許若瓜蒂末 一錢須便吐盡則十治八

來之邪氣則毒氣率厥而外者年年相望至其暴急 以太陥胸丸備急圓之類有難極者葢痙病之

一種而後世相傳日破傷風者也

梅毒初發服輕粉者積年再發則決難除病根須長

服解毒之方以漸起平至于積年之痼疾非輕粉則

不能取效也

余漫游之日多閱諸家之禁方,来擇待于古毉方者,

錄于建原則高原率歐面及者主是自然

東洋先生赤小豆湯方治諸濕瘡內攻者

對麻黃七分連翹五 分桂枝

赤小豆五錢商陸生

三分大黄五分生姜一錢

右水二茶 能煎取一茶 能

東洋先生琥珀湯方治在後腫

琥珀一錢半商陸

錢桂枝人 猪茶

友鼻五分

右水二茶盆煎取一茶盆

果洋先生再造徵方治太風及覆毒不擇新痼服之

鬱金五錢皂角刺 可也

支

大黄十多

白奉午

3.

及鼻六後相大

右為末温酒送下

治在大毒方

大震

越北甲

華產與猫五枚 監為不妙以聽色變為度以二茶蓋水煎至一茶

Kitasato Memorial Medical Library

										1
是全住已	治腹方典一然用無原對無正	又方 耶 斯 奶 腸 置 痛 齒 凹 處	服山椒煎汁	治過病方日本	大方水一盏半煎取一盏,	白焰焰養麥半命	紅夷人治小水不利方	右末用,	烏賊一養大黃五分及鼻五分	治一切疗癰傻富方
うこは	教士一変	在分一日三大人限				者人人的宣傳是中			分	

右二味傳擔上	水蛭霜鳥梅	治病療疾痛方	右末鬼	黃連 乾姜 烏梅	治產後冷熱痢方	右末用。图图	反鼻 常山 大黄	治雅後塊物方	養服如此七日除盡商毒	漫流 幹言
	· 金麗	太太及機場八澤所殖服		成大黃 十二 白奉午二英			敞魚田 各		西毒	一 公本人

治痘瘡暴思者方 治咽喉腫痛方 治衄血方 方 四血輕症 類 為果和白湯洗下 及 舞箱白湯送下 有 細末煉蜜九 梧子大每服五分 地骨皮 人澤委中亚血 幣甲 上 能不知途 鼻照 剧者 紙包 實 鼻中 孔 味子 一日 三次服

各

熏

養半

金屑丸方解諸毒停食 以竹管吹之約壹分五釐 升繁 喉痹方 右細末糊九 養半金箔 金碳石 烏頭皂角各等分 白草霜各十 Tr. 支支 硫黄 真砂

鶏鳴散治打撲折傷

大黄一茂杏仁二菱

右以水二合煮取一合臥

時服後飲好

治乳腫方 治乳不出者 治學毒方 產後腹痛 治血淋方 治產后百日間不乳者方 新九 治一切吐遊急追者 則止。 海金砂末白砂糖选下 方指合以生姜湯选下。 右末糊丸太豆大蒲黃為衣 木通葉六卷牡 右末好酒解之鳥羽塗乳房 **有未自湯送下** 二服忌五萃青菜他煎湯 貯陳艾於瓦器中焙熱帛包炭臍上 至鷄鳴外血盡下 硫黄二淺水銀 括葉根九錢青黛六錢 管点を作品が ·蠣四美麥門 一服四十五九 支 艾氣徹口 日夜 中

打碎生蟹敷之患處灸五七壯以解毒之方下其

福毒 知則患處四邊發紫斑

治職毒痼疾鼻梁欲絕輕粉諸藥不効者方

百艸霜一合於明丹二養

右二、味細末攬与厚紙作袋如烟管大約長二二二

寸乳藥末實袋中春千下級定其口臨服置香爐 中焚以竹管聯之作盖被爐使烟氣不洩七日而

服盡以口內爛穢物下為知

四邊隱起若奇后惟品其怨紫黑者木為難治後方

王之但腹氣不堅實則不可服

大黄末五錢辰砂 二養天盖末五養麵粉五葵

别貯鉛五錢於土器中安火上待鉛融公屑再加

歸來拾錢瓦其汁每朝以一茶盞服散藥若五分 小銀三錢鎔化下火待凝定末之合勺諸藥煎山

井 一錢後自日至以時香盡所餘煎汁若受毒於

母胎者雖壮實之人不治假令治復發慎不可與

治大人小見頭瘡方

天花粉 右細末和胡麻油傳 四是輕粉 地龍霜

一支

四美

Kitasato Memorial Medical Library

又一力 治、大人小兒喘息方 黑豆湯 療蝮蛇咬傷 治濕家頭痛方 黑豆 牽午苍或牙蠅頭 灸巨里動脈上若十五吐若二 下血方 右三味為丸用 乾牛十養合歡及霜六 地榆 右以水三合先煮黑豆取一 採藜葉與青莨若手裏揉和傅思處 右以水二盏煮取 冷服味噌汁 口含水半盏瓜蒂末少許貯小竹管中吹 烏頭附子毒者方 合服 五菱 宱 治脚氣上冲 大黄八分枳柳 砂 甘草 十箇蒲黃 一盏服 養桂枝 分 一合太海入 一十七 麦 入鼻中

										-
総制	禁口五美巴尼五粒	吹喉痹藥	右一味 白湯送下	鯉魚頭黑燒	治乳癰蟹乳不出方	右雕糊九津縣下流一家相甲	雄黄一幡愈金一卷巴豆十四粒	雄黃鮮毒丸、治纒喉急痹	在柳光 為 為 為 不	一,桃仁、大黄、浮石各等分

							-			
浮石丸治血塊	右楔米丸梧桐子大	自述 攀石 各等分	日丸子 治永痢	外傳藥則內必下之	獨嘯日濕瘡應無傳藥愈之毒氣內	有為末以呼傳	輕粉 意義綠豆 白附子	治. 通婚方	 	八 清 湖 本 三时
		出一十十		掛歩った。	之毒氣內攻者不少		硫黄 牡蠣各一		黄	

治黃胖方 理中圓一治小兒諸府 療病犬咬傷方 右為小丸每服十粒若二十粒 萬年青燒乾涤等分蕎麥粉城半 鐵粉百日黃連 人粪傳忠處少間洗之灸其上 則全息 右為先白湯送下明年又發則再用 河漏停滯方 着來

治懷毒方 治胞表不下方 治療療結核方 右糊丸酒送 大黄二枯攀一木鱉子一穿山甲 右為末法选 及鼻 第一 沒 角 石 霜 酒送壹銭日三度 絲瓜黑燒 土器中 煅 過細末用 養麝香三分 推 巴豆 粒

治。 叉方 治痔瘡經年者方 赤石脂三 塗蛞蝓於患處 領或 毒方 赤石脂三分 刺人澤筋推之要動脈治耳血 右為末耶新汲水一盏內酢少許送下其症 上阿片 分 Fi. Ŧ. Ħ. **整於**外利加字幾利 据福皮 三分 糧 阿片 五 五雅 同 鹿角霜

紅夷人治率厥方 治痘瘡有虫癖者方 紅夷人治吐血方 氣送之 有末九欲吐則以一物瓜蒂湯选之欲下則 山椒小黃連大烏梅 延胡索一味為末用 标檔皮 拉若 iff 作 承

蝸牛四五十箇以胡麻油煮以

味一個日二汁 黑

備中鬼好養味噌藥方 緋知宇 燒 车

乾柳肉

鯷

赤 蝦螈 維膽各五 分

布小兒疳 眼 眼睛見鄉紋者用之有奇功

治 傻不利方

茯苓 沈香 中 乾薑中

里

煎用

療疗瘡方

頂末熊膽 水蛭

上記涂 針 則黃水 大出,

治。 中蝎 毒方

稱俗日。登 利毛知

右即時傳痛處

丁世思梅毒者多兼氣疾故處方不兼療氣之藥則 一種語

毒氣凝而不散

矮躄初發其人無濕毒暨瘀血之諸症而其心下 痞

較弦急者是為氣疾服吐法後須長服為心之方

門治世鑒動謂治勞察膈噎蓋似者也 **勞察不可治似勞察者可治膈噎不可治似膈噎** 豚氣未必用奔豚湯

Kitasato Memorial Medical Library

漫湖新調

塘病須服恒山吐之大法以五發為期寒少熱多者 小室常山可服紫陽花末一錢也服備急圓壹分亦

可

吐血因源發者易治因氣發者難治一發尚可也 再

は他生まった

發多死

吐血後見腫者危矣

產後三五日悪露不下腹滿不城者須急下之數日

後為痙難治

了一婦人產後八九十日飲食不甘味膚革無肉胸

腹痞滿時時雷鳴太優易為下其脈沈微平日書間

抵當丸灸脊際每日二九自項門至腰眼無慮三十 無故悲怒經數歷之手不愈請余余與多連湯兼用

餘自而復舊

有一世夫病痔漏肛門傍 一寸有小穴出膿汁又左

耳下一寸有黑痣時時震蕩如與肝門傍小完脈應

者過身發戰慄脈數氣促肌肉日脱落乞治於余

後一年再過其地呼田夫問其經歷則日票置不治 思索數日不得其鮮堅辭不療以為其終為勞矣爾 **燎無故快復至今十餘年不得其鮮**

慢好谁比

有一壯夫病積

一年二四發發則大傻秘夜夜不眠

吐急灸章門腰眼痞根數千壯血養連湯二十日許 飲食悉吐余以苦瓠穰二分吐之一日夜其豆再不

爾後再不發

有一舉生每冬初微嘴按其腹部諸藏逼上余日是

空處則上遊冲心不可大吐 越與瓜蒂末五分自日 喘息之候也可急吐唯臍上 一寸有動氣吐後胃中

至肺時吐數十四肺後吐黑血三四合困眩不可堪

額上冷汗如洗急與冷粥一盏止吐服二黃湯二

蓋其。翌增進三黃湯經二日灸項門野七九定各百

北數月後不開喘聲

脈亦無故悲愁經數醫不治請余余到診其脈滑數 一男兒十二處左右足痿如無骨人語言蹇滥目

腹位逼胸脇臍下如空審問其平生氣票猛烈過群

見方其怒罵之時眼光爛爛血氣如湧盖氣疾之一

熊膽武分十四日病稍輕續服參連湯六十餘 而全與偏枯相類唯老嫩異而已與多連湯兼用

全愈

真一千年來一人 山東洋能運用三本氣對檢之傷寒論馳驅不差範

山東洋開其門下醫生無故轉處方。則朝日鑒自易

以古道為荷葉者幾希 為耳食吹聲之徒說必也待受而不疑者投之而門 棄之門外逡巡一荷擔者俛而拾爲故鈔也鳴呼不 九雜組載金陵人有拾動於道者歸而視之荷葉也 八百技造其極地則意思必入毫髮機緣 之所存難

與村翁年過六十其技大行于越南北人人相争邀 致而高室勢貴屈之則不肯輒往貧哦村夫請之 丁日五子 須多讀古書與古人 晤言以為除胸間之 一、請輒到其意蓋在于矯世醫趁勢利者也 常問山東洋日我事君三年技不進其故如何洋

汚穢余當時汎瀾閘之未甚得其意爾後十餘年

游海內試斯技始知榮辱悲歡之心妨診察吐下之

機因想先輩任誕構逸不屑世紛者益有故今錄其

二四馬中古有隱士德本者甲斐人也常驅使峻攻

之藥未常誤人頸掛一囊周流諸州應病者賣藥取

政府又中古洛醫之巨擘為有馬丹川曾應福井候 價每貼十八錢 台廟有病徵治得痊臨太乞償於

之召至越前侯病劇數醫皆東手丹山既診出就客 者沈吟良义忽日殺之耳士大夫退窃議日後言在 位其士大夫來坐者數人丹山開藥裏匙白末如雪

游三國倡家有一殊巴將隨太為侍婢妓日倡家有 愈豈可不進乎遂進徐徐而退久而全癒丹山將歸 喜無限迨川將東歸謂日積年之患一日除去我何 侯竪官有西一一鷗者其枝超出時輩性卓帶一輕 **盗無乞身錢則不能丹山日本自有旨連啟越前侯** 安其藥不可進一老臣日矣疾非常不有奇術則不 亦勝願得賜侯日可后方數步役擔夫數百人拖搜 **耶 償 云 又 洛醫村 上東川者治安 執 奏沈 痾 得 愈 侯** 而随後行至播州漸生厭心弃之海濱歸云又小倉 以謝德川日鄙人無他略好唯臺下前庭巨后奇巧

幸遠來寒鄉僻陋無珍膳可慰客况鷗日我皆雞羹 豊邑長某者有危篤之病迎耶一鷗家兒出日貴客 鷗邑不動日不暗平生肌誤鑒甚整太出願家兒日 田家多雞幸供其他無以既而診病者出日無伦故 向所請維想既殺爾家無所用鬼我其或陵駕權智 少問室內在躁親故悲吧家兒出日病者或客幸歸

或不屑順逆皆如此

瘰癧服 渴心湯兼服 再造散可 也灸肩井膏盲曲池

后為難治須先其時下之宜雞鳴紫圓

年產後敗血不下者慘毒尤甚數月後心下輕滿如

漫游新語

身柱數十壯

香川氏日温泉不熟者無益于病者可謂夏虫之見

矣藝州佐伯郡有泉日水內治腰脚不隨者有奇効

其泉頗冷秋冬難浴

在大毒隔日發則大概不治凡實中大毒須先其時

庾服番木鱉子武錢甘艸貮分以發之後右方中加

大黃下盡宿毒

夫人多思慮火易動火動則津液 **個加旃恣慾則因**

為、野勞野勞一小多無疾

釈疾為疼壁者其陰多先消縮及其將愈其陰先鴨

動

襲蛇及諸虫毒者服雄黃龍腦麝香之類為可有

血·古上核起為星點每點出血急取鐵縣水二強服

外於是末維冠雄黃一錢龍腦五分以白湯一服食 不休及與備急圓貮分下之數行血不休昏眩將

頂血止徐徐而復故

府史天資勁悍過入能斗食能斗飲腹與繡佛類 日治之余點灸冗余堅其腹消縮異常臍下如削驚

將養延生不肯越五月發祖而外 者最余日是病不淺得之答神太過須急辭官處 問日左右足得莫不飛緩手日然左右趾梢若麻難

有一男子病時疫外症未除壓以太柴胡湯下之 口後昏慣不知人事耳目之用悉廢索空狂吼一夜

深頻發五变而來叩余門余到診其脈細數與勞

察相似益下之太早虚氣上衝而然余日是壞症也

家人懇請不休延以朝鮮多壹友黃連五分作湯服

(三条明脈變芤遲家人大喜余日是未可知明朝

五夏再於其是夜診其脈如朝診時一姓就上待日

堅辦一歸時醫與四逆湯人養湯數日皆無效如治 原刻而發煩燥西溪傳五、愛鐘再診見細數如初乃

如不治經二一旬而成

一室女有私夫娠馬隨胎焉敗血兼鲜血下如覆盆 倒數四家人不知故思章相孫其家戚族寔繁來

訪者絡繹不絕女天資伶利懊惱中或恐它日事發

露際家聲氣鬱結而上衝頭痛嘔吐不能食不能眼 腰背疼痛下利清穀四肢如狹冰經七日而請余余

到診其脈動數胸間如春心下痞輕頭髮振動額 月冷汗虚悸煩燥脇不能着席硬以桃仁承氣湯

斯下,其,餘血又一日手足,察, 奴追遽來告,往診腰 悸燥煩益不能脈則如驚癇四肢搐搦自日合睫 則見鬼按其心下巨塊連胸腹练々余以手歷塊摸 得動眠數刻覺後眼先倍常余門家人目是應發 乃與太黃黃連湯心湯一日手痹復足不復而不 痛不下利煩燥稍定脈數微减余謂痹屬氣不屬 少問數日事發露臭聲外問女覺之病復大發虚 日余在榜鬼不得來可少安枕壓塊盜嚴塊欲動 利利而又一日復門余意益堅居然與為心湯 一日夜余知其日日當利居姚典為心湯其空

在數日食進胃調而後療狂不可乎唯連延經 果發血寫心湯自若後二日食穀頗多十日後飲吸 常唯頭取不能起於是作白虎湯后齊十 米 耳家人日病得不外年所猶可况百日乎既而 加芳邊五分黃連三分,日與五郎八十餘日 斯女伶利無易困在則心情心則生不必則成

熱往來頭痛如割腰背疼痛四肢困倦脈洪數食飲

進全與傷寒相類急作太劑葛根湯

有一完衲二十餘歲來宿浪速寓居率然感外邪寒

塾生,日此疫後為太忠謹勿輕茂其夜五宴起診其 貼襲被稱孔汗如此三日惡寒僅減餘症如前余呼 野滿面余抵掌日有是哉無他故其明勢太食進脈 脈如轉索來太不自由余意以為受邪不淺恐不起 其腹特脹大其脈沉遲食飲則悉吐以手按其腹門 葛根桂枝誤逐其外 腸轉鳴如雷徐而坚之則起伏如有動物急取雙紫 如平生經二十日復故可知年邁思症者難發達而 目如進葛根湯益增、鉄兩、既經五日熟生來告紅症 亦關買家見病疳下利日十餘行羸瘦如視乾妖蛙

固解而太爾後數十日兩脛見腫咳滿而來 再進二點又下二一百餘頭吐已下斷食飲不梗而困 您亦極矣余呼其父日雖病已太中氣難接續不治 鷓鴣茶湯二斯進之其夜下鱿鱼三百五十頭其霊 圓一分以自湯溉之不吐少許滿腹絞痛下腐穢物 合餘就虫三頭午後進薄粥一盏亦不此其急作

勢而赤目脈赤獨頭面搖卒口噤背及張者痙病也

傷寒論經經場條載病身熱足寒頭項强急惡寒頭

物皆曲弓弦界尺之類視皆如鉤蓋皆原疾也

五雜組載松滋令姜愚勿病不識字叉有入得病視

Kitasato Memorial Medical Library

蓋與今所謂卒癇全相似而後之事實則斷然自別

L血虚家及氣疾家其易火逆者不可過用桂枝

轉為勞

溼毒受于母胎者决不治假令一旦得痊後必發為

人父母者登思諸交精之初乎

傷寒論簡易的切無論爲鑿流正典活人元亀而爲

权利見撰壞瞬駁發亂非一非深造超指之士不能 辨焉傷寒例及脈法皆成叔和之手今以痙濕賜

之條爲開卷第一章陰陽易而下斷不永

因幡 侯有疾後洛緊飯田玄仙使者造請玄仙出對

悉貰盡使者幸償之其氣宇恢廓不屑阨冤如此它 可其請乃入室中執貨錢帖數十枚來日我好家眼

口壓名振天下有故矣當世醫務美衣服如賤倡濫

姊 沿 馬 俗非一日 有志之士 可愧 外

山東川治人誤機用則廢治療數日出宿妓院

歸則掉頭日我悔恨未除於侯難詳恐重誤

村翁躬有微恙則不診人日我心不了了診察何

Kitasato Memorial Medical Library

从 蒂則代 用之爾後讀千金方有 苦 勢 穰 圓 之方可 長門村夫家世傳小册子余偶宿其家閱之其書中 技之東可勝數乎 滑佞地之人而後不良不美之俗靡災數于海內吾 俗以為姓點不如此則難為医及其還家斷然為油 經脈之事四方之子弟召笈來學者不知不識化其 我邦三都之俗儇巧目於俯仰視四方人以爲素樸 有苦勢穰吐食傷之方余試之數人悉有效於是無 以笑百虚一實左右賣入延及医流臭態百端盛典 美衣服俊給遷就苟且而求售不能極思於藥后

除毒氣而已鳴呼危矣哉余少小患濕毒長服再造 知我邦中古講漢唐之古方書其流風遺言物存於 **徵得愈後食餅猪鴨雞飲酒復發者三次是余親**以 近世唱古醫方者輒謂諸瘡痼疾未必事禁忌在驅

身武之較著也豈可不戒乎且凡服峻攻之藥者不

遂房室則腹無易竭血脈易亂難以得效也

勘遂學科歸古医方甚矣哉末世人亂道

觜嘔血之所得今世粗工俗手遽然試之傷人者不

山東洋之於三洋氣與村氏之於吐方皆數十年枯

Citasato Memorial Medical Library

盡以問其表使神氣變冒乃作再造散數十劑兼服 大黃黃連馮心湯徐徐而得廖 之心下輕塞脈絃而澁葢得之驅毒甚急餘毒不全 有一男子病下疳瘡服水銀愈後二牛骨節無故疼 **涌肢體有時腫滿喜怒無常百爾業悉廢請余余診**

粗相似但脈浮洪心下不痞小傻有黃色與桂枝鳥 過上而然與桂枝松實湯數十日使發其業不作 心下弦急蓋其資性脆弱勉强而就業神氣結腹位 有一鼓工項門腫起不能顧左右無他症脈沈後而 八九十十一斧際數百壯全產别有一男子病症

頭湯數十日而廖

其臍下空洞無物余日是腹裡從來有此物勞神甚 **那五七動一代心下有一塊蒙皮突出狀如太附子** 多御內甚過中氣虛竭上衝逼心以藥后難治廢業 月一賈豎四十餘歲率爾而來請診其面青而無澤

故日彼命期不遠後數十日而殞

逐室逍遙而過日則猶可經年所旣而太余語其親

醫以小杀氣湯下之下後吐逆數四語言不出食飲 僧十六歲病痘序勢三日食冷麵為傷腹痛一夜 下四肢變急不全城不全生經五月請余余到診

也寺王振請不休通耳家猪膽一分塗牙關徐上一 四喉有聲如唾沫下,者再取白湯,溉之白湯悉下乃 見困腹氣全竭加旃以痘精液外運內必不支不可 二次食飯一少蓋二日而痘色悉見余再診痼瘦見 元穀一七其明部言少聞益服參連湯至于一日 作參連湯一盏以給殼溉之午後少服米湯其夜服 湯既之到咽而還余呼寺主間日此僧平生無有痼 脈沈微腹皮茲急不省人事不辨五色天關堅問 上一個裏空洞無物謂寺主日此僧平生為痼痕 乎日有日是下之甚多痼瘕驚動入胸腹勢不治

持人則不愈質堅日諾延作半夏瀉心湯加大黃二 琴休藥余按其腹連結者未解日未解試休藥居數 臍左右積塊結連心下余日此病在腹不在 而外固辭而還後五<u>日果然</u>而殞 日又如舊於是再服前方凡經三月腹候漸穩灸背 分與之日二助數日後便利肛門不痛賈監來日病 刺痛不可堪經數年不愈請余余診之其脈洗 一貫豎病太優燥結平生十餘日而一行下後好

用郭服子之於詩雪山道人之於書芭蕉之於諧歌

皆一世之逸品晚失巧執之蹊逕雖小技不可忽諸 游其家單之從未肯鑄香爐急治生也偶有好事者 亀娘共有絕妙之名亀娘為人豪放使酒常真丈夫 長崎有一女子日亀娘其父業鑄香爐無男子傳技 詩對道人之書誦芭蕉之諧歌未常不赧汗浹背矣 即工長崎総管承執政之意使製之命下。半年漫漶 先納數十金請之則乃買酒殺招隣里酣飲數日 地者無它榮辱非譽之心動于中也余每詠服子之 告人從事古医方精謹十數年終不能到于絕倫之 不為総管任將滿使鄉吏促之稍稍而成猶未肯學

譯師吉雄氏得通彼邦之語雖其治術剛愎難遽用 大萬物之多唯鲷異之視者斷然無間矣吾人從事 風致不愜意攜來一大斧打碎其明総官東上香爐 逐不隨矣達我之人不可以勢位奪其守如此矣真 於古竪方奔趨名利之途汲汲求售其操行不如賤 女子登不悲乎 夷之俗能汗吐下實曆壬午春余西游到長崎就 日置所作於案上路一林持太管吹煙熟視頃刻 吏遣卒數人守其家亀娘不錙銖夾意放誕益甚

此邦人至于汗吐下之機用一一與我古鑒方符矣

夫中華聖人之邦失其道二千年特於蠻貊得之者

不一亦黑子且其國政不禁劉人及其民亦不屑屠腸

絕筋之慘是以人病,疾病源不明則刳剥之視以為

後圖如此數千年其書鬱然而存有志之士考證玩

索有可獎助志業者也

艮川子謂百年以來游情之人腹裡結癥痕余徵之

都邑市朝之人比比皆然益太平日人五民蕃息金

錢虛耗奢佚日盛則知巧之民不免病氣勢也医力

施治之日從這處下工夫則有太稱益矣

百技有知之者有得之者知之者不若得之者而

得北上宇宙鮮矣得之之人 **阶**沒勿為 學層所移勿為貧富所阻夫而後謂之直 知之易得之難夫得之者、勿為順逆所物勿為龍辱

實一一言者皆空濶迂僻之論何知其機緣之所有適 和華今古之儒流譚及我技者不為少夫朱武之

足以視其腐臭之態而已

傷寒論日太陽病不解熱結膀胱其人如狂血自下

者愈其外不解者尚未可及當先解外外解已但少 新逆血下者或有下之甚早虚氣上衝血下者其證 腹急結者乃可攻之宜桃核承氣湯按疫中或有因

候粗相類但少腹不急結今以桃核承氣攻之則其 害二品器訴其勢結膀脫與少腹急結之状可無誤

其脈沈遲余與桃核承氣湯二日優下腹不减痛了 ...也爾後遇如此之症極意搜討亦血虫癖之分 口飲之棺中見就虫四五十頭始知向之腹痛不瘀 婦人產後六七日腹滿絞痛大優祕結時已振寒 小兒遺尿至十餘處不休與鷓鴣來湯下、虫灸章 一日寒燥大發頂强不張逼視須更而於既於

前法不愈後游藝州受一方於惠美三白者日以白

湯服華渡蟬日五分約六十日若八十日許而全愈 服之十日若十日餘病荐發者其得效益全余試之

或有效

人原村女子戴新過浴下忽如覺不快者坐道側產

子躬自洗拭入一室請冷水一蓋而太行侶親之

者相傳為笑談可知勞動形驅者無難產也因想巨 室富豪之婦侍婢穩婆蔻左右重菌而坐撰米而食

月不學步不搖心常懷恐懼以,大患者不少可不

温く上子は

一小見病形相似治之如

腰眼數千壯全愈叉有

膏湯數十日而鮮 調胃承急湯得燥屎八九枚脈變洪邊乃與竹葉后 古上焦黃晝間微煩頭汗出脈細沈無力余一診血 一老夫過經十餘日不鮮手足冷心下滿口不能食

脚氣急發者慘酷尤甚辛已七月南紀賈舶海運到

共疾延余診余到診尼右脈滑數胸腹動氣如怒濤 赤馬關闔紅悉病水腫乞治于一毉生毉生不審

日腰肯治療下悉麻痹兩脛刺痛不可堪問其病因

言先是連日泊能野浦飲雨水余日是急脚氣也不

可救矣其證 一人 人外如此數日闔紅

悉,

一女子四十餘歲下利腰痛膝脛有時微腫脈沈

動則不省人事余日此下利自凝瘦腰間兼有積 一飲絕微喘潮熱食穀一日一二<u>蓋腹底有</u>癥痕

典附子粳米湯屬日不可酒色不可思慮酒色而發

思慮而發我不知非藥之罪也服五十餘日海除 偶其未将愛侍婢女子覺之如心忿恚數日滿症

悉發遑遽招余余日病因忿恚忿恚不散則難 逐侍婢三日 而 典與 粳米湯服 百餘日復舊

- 男子病藏毒愈後十歲膝下 簡爛透骨有時

Kitasato Memorial Medical Library

沫三四合齒齦斷續出黑血九日後隔日進備急圓 具通與輕粉九一劑七日而服盡吧账腫滿日吐涎 二分或五分耳峻湯每與數十行經一十日腐肉復 售曳杖歩行經三十餘日飲啖倍常就耕稼如十 厂如耕者動作悉廢又三生按其八腹脈堅實而無它

年 前

沈遲食飲則吐<u>按其腹痛連胸肠邊</u>臍入陰筋較満 難近手諸毉畏縮而歸余日是寒疝應不以作附子 湯心湯與之夜妖余不知其故沈思數日偶讀傷寒 一男子病腹痛苦楚不可堪四肢厥冷額上生汗脈

論其所謂藏結也余當時況然不精思誤鉴如此意

呼讀傷寒過十五年甚哉事實難周

有一男子病無疾發則向壁而坐食飲如常大優五 日一行懶語言動作諸歷悉為勞余日是非勞拍

瀝 也以瓜蒂散吐膠痰數升後與蘆薈內每日五分 月輪次灸十三四五二个七輪數百壯經三月不復

發

請余余日是濕氣也後或爲脚氣與大黃附子細辛 一男子滕脛刺痛腹脈無它異經三四處而不愈 百日而愈附子 鳥 頭 服 意 錢

經病有太陽症其手足拘擊癱瘓者以**甚根湯發汗** 表証既太拘擊癱瘓不休者與大柴胡湯四五十日

中喝吐瀉手足厥冷者二種其二、宜四遊湯其二、宜

虎湯鏧應潛門壁之

有一壯夫病職毒七年兩脚拘攣不起易緊三十餘

不愈漫爾廢湯藥余偶至其地親故來請就診氣

祭下 余日是 血 也 及 濕頻年為 藥所 角次結 而不解 韻食飲如常其脈遲緩腹無它病唯其腑下有一癖

與附子粳米湯二十日徐已脚伸時余將太書方與

之日服之無怠爾後一年傻和言經二百日而復

以為病性而還不至外作太黃附子湯與之而歸書 一男子病轉胞余性診病因加發其勢不甚急余意

問偶檢閱囊中見漫遊中所得轉胞而方四五意叉

漫以為有許多奇方未必待病勢開闔一學而可得

乃作一方與之不治又與一方不治又與二日而

向方用盡而不治病者不信易整後三日小 傻果然 而快利余因奇方忽上誤機用禪家有言日金屑雖

月一男子病濕毒兩脛彎痛不可行步頷下腫起如

受入眼則作緊信矣哉

滋補之藥數百日益不可其脈沈微其腹皮逼脊只 熟按其心下則到底痞鞕盖其肚裏固有痼癖為濕 梅核大中氣鬱結飲食不進虛贏日甚於一日緊與 **永見脅上遍入胸延與家方解毒用大黃僅二一分微**

於是增大黃海自四五分快利日三四行益利而益 日二一行數且後心下見動物腹氣漸復食飲有味

健經四十餘日鎮下核消肌膚生肉 日行一二里經

白餘日復舊 以附示海奥马

火上衝與益氣湯二十餘日下旣斷心下終痛三日 一賈監感暑泄利其妻少而姣時豎皆以為虚

夜無問斷四肢拘攣口不能言服附子理中湯數貼

小治欲, 然語余余日是那毒結上及可下醫生壁傍 皆不可賈堅特日雖下女雖不下死女則一也不

坦紋痛不發而優未肯來余於其腹臍下隱然怒脹 如服之無遺憾於是與備急圓一十粒服後悶憑食

口是雖心下既解藥氣為疝見閉運作黃連寫心一

貼進之其夜二要而優下家人來報余日意者五六

1無它故至明下,亦行神氣輕健而可行步與半夏

爲心加大黃湯二十日而全痊

个阪赤后家家**僅**病疫經十五日不解請予診之面

Kitasato Memorial Medical Library

微利醫與麻黃杏仁甘艸石膏湯數日病益劇予日 湯一盞不解到明益甚心下溫上結不徹於是服瓜 蝦魚鶏卵并煮其夜半覺腹痛服家猪膽三分四逆 是受病之初發汗不徹邪氣鬱姚入東欲為結胸 赤微陽時上潮熱古强狂吼脈數急胸腹輕滿有時 喝時方气治者不少强往來間里數日八月五日食 宋平常多病虚羸過入寒暑易侵肌癸未之七月病 不通與太前胡湯及祕又與如此三十日而得 作小前胡如松實湯與之日進二貼服三日太便 作、大前胡湯與之其監太傻一行胸滿浸减下痢

者須後之事實審其機械之所存 路坐强扶而坐上 則吐尋探吐者三次胸間微利而 傳月病咳嗽潮熱脈數急者一切灸藥悉無益五尺 後自旦及午時探吐十餘心下結散自起行則昏睡 心湯其症候太同少異仲景論其區别周悉怨到學 午日 一夜其是依病謝治療集偕士談笑 黃黃連寫心湯生夏寫心湯生薑寫心湯甘艸寫 快吐則僥倖万一不能揚頭吐又以為余灰則 一分居頂刻益劇脈斷四肢冷舌學不下予以為

乙童子能辨之或無熱或脈不數者非超詣之士難

之梅毒者其証候全與傳尸相類而待治得活者士 詳其治不治矣至其或得之氣疾或得之瘀血或得

勞察無咳無熱脈不數形驅枯燥而聲啞者不治

梅毒痼疾外候不見或鼻孔裡或啊喉裡肉瘦聲酒

者難治

福吉家長服土茯苓津液乾燥者火動發咳甚者率

一般 須慮諸其一初

疾持漏因氣發者不為少攻之兼療氣之藥可也

梅毒手足骨隱起者難治

有黃疸者有似黃疸者須辨 世人民點一一多巴慮以鬱蒸氣火門茶連者多門桂 金匱要略於胸痹心痛川附子桂枝不為少澆薄之

越前賈和海運到亦馬關其船王某畫間檢閱賈物 附者少器詳其心証候可無誤之

過市忽然卒倒直視搐搦不省人事行侶驚視相集

有入 <u>秦報其舶舶</u> 中人相逐而至內一人以鍼刺舌

黑血素之而飛須更而無息益所謂亦病也越前 上傳其方余北遊受之野人用之於海濱徒跣之 間有效矣

先是十餘年有一壯夫遇時氣思寒發熱頭痛如刺 四肢昏情小便赤如血食不能盡半經余以葛根湯

北汗數日外証既退與小柴胡湯五六日待屎輕

調胃承氣湯不傻更作大承氣湯二倍常法與之終 小傻而外余衡慮數日不得其解漸覺其初發脈流

緊一心下痞塞爾後一年之越前受吐方復視一發

生病疫者形狀頗相肖待外症既退以瓜蒂赤小豆 末二分吐之二次脈變心下達雖然數則後太傻果

然而秘與大承氣湯二貼製涯而得全

五十巴上病偏古之人四肢不如意語言蹇滥常流

涎者其腹族堅實而太傻秘者可以太黃黃連寫心

湯以參連湯可也參連湯不可與者為難治也凡病 斯症機轉如木偶人則可為既愈鄉然不全愈

脹多得之於天蓋受體之初胎穢結為癖潛在腹

裏壯年後勞動心志甚則因發為皷脹决為不治故

往已父子兄弟連發亦有

產後血無易涸等勞傷精神則因舌乾泄利發咳為

熱發咳為勞 勞叉新產之時惡露不全下凝結上衝舌傷泄利發

八於山野養其性命者謂之賊而通計之於生涯

醫雖才氣秀出於人者試治方於危篤之病不過五 雖其多者不過五十人若百人方今之緊倘拙而行 聖體之書而苦寒鄉無師友年甫十一東遊於京師 矢所以學歷者登可忽諸 師事前豊香月牛山翁修東垣氏之方余得與聞生 無所遭遇西歸之後為養子於赤馬關刑富氏家君 於時不知不識賊人通計之於日日二五人者蓋不 **尔生於長門之西鄙長於畝畝之中慕古人之節好** 八則知見不明得處難生 少生涯則幾千人乎以是觀之醫之陰惡過賊遠

學我私疑之余日余修整方之書五年編參攻時師 先生益有厭之心開講肆講八經有同僚安達某者 **竪一**願冥利欲传給遷次取容悅無益於人之性命 歸自京師見余謂日子鏧生而講六經所為里于所 問然有厭弃醫方之心年十七有家君之命西歸 使知無益於人之毉不知有益於人之毉子日有益 知其無益於人之性命故有厭弄之心某者笑日子 方余得與聞年十四太遊江都編參攻時師而見時 丁三遊於都下師事于井上氏井上氏修丹溪氏之 關性狂狷為鄉曲不容太再遊于都下學于周南

拳可這豪傑之瓜子誰物上乎為方技之徒宜哉其 謂余月漢唐以下數千年中華無等溫之日割據 之遺術備存和華今古之毉無知其條理而施之者 無離倫之才幸有長沙氏之書雖其八不可知周漢 諾於是再東入洛有同僚栗山文伸者先在東洋 **溲弱之餘快於心乎寧依吾志開二千年來之沈滯 電較之下開門待四方之士、火矢子盍一見諸子日** 生之門下引余見於先生先生容貌雄偉神彩射 生民外于養榮益氣之說非一日也五千益冠漢高 之變如何目有香川秀庵山脇東洋者皆在於

曲之人來乞治者日數十人待之以所聞於先生活 流痼大

果平昔之所

學以為古

器方之

妙至矣

蓋矣 矣留居塾中一年與聞其道傍視先生之決外生推 其言未畢予舌學不下汗流浹背生涯之趣向始常 投河而後為士平學道志也行醫業也何相妨之 政初快後 危或長服無益於病或經 叉罹其禍於是 乎唯子之所釋也夫子貢貨殖子路負米何必講生 大下無不可治之病其明年西歸赤關遂遊浪老鄉 如知為醫有開闔離合之機與雖扁倉有不可治之 下之方巴豆甘遂輕粉鳥頭無所不至或忽治**忽發**

諸難治之病垂三年始知為醫之難也就中遇時不 違自此以性歷事多年志業始習熟而已太歸於京 師授受與的翁者於東洋先生再西歸亦屬而後近 數次臨將歸謂余日五子學東洋氏非一日其論非 病雖然此時血氣之慾未定好貨好色學醫之志不 吐下之三、法始備馬子在赤關以汗吐下之三次試 精汎然過日三年歲二十一開北越有與帆翁者能 如銀其為入厚重不可移余留學六十日與翁討論 小局其心日非不遠而高論遠自自非聖賢則施為多 吐方與山仲陶同姓而見受其法翁方面太耳鬚

治也所謂可治者非時鑒之所謂可治也而深識所 吐下之古方之謂也年二十九因病離家漫游四經 謂古鑿方者非用汗吐下之古方之謂在所以用汗 能知可治之病所謂不可治者非時毉之所謂不可 為壁之志始, 利窘急且至一切絕飲博人賴之交維髮浮光園里 一筑東過藝備來客大阪其間診沈固滞廢之病無 一千人診病年多為技年拙益知窮理易應事難 也爾後又二三年能知不可治之病

了不可筆而舌而傳也如 仍用至其實要須斷達影 次貝集 脆恒漫游舟

藤村善右衞

脊灣

致西京金 監清,乾隆帝御養堂三种 テ被かラーリー、放送家人心得テルギフラシルス あラ吉益先生/説ラ林中三傷寒療治ノ働人を様こして 立遺傷寒二書ノカラ 吐方、療治シャウ薬カランにス一冊 和来流汗吐下人六經司子區別 獨啸魔著 八冊 諸病名之以呂波一分子病源病因于 シルシ書ラ引テ糸ズ 王書原孫思邈でデ西カラックテ医療ノ手 病症ラワカチテオク ヲ施、守病症ランと共三國ヨかテ病人用と試と強い 古一万烈典 療治しカタラアラン中系 竹錄 腹候圖 田中荣信著

捅陽書林柳原積玉圃醫書版目錄

肾橋筋北久太郎町北五人

河内屋喜兵

木子東 垣先生 若

Kitasato Memorial Medical Library

鐫 新 展 壬 保 天

及意何事能屬何業形成 巴有麻道心時 其元顏人老死差 者矣而慣 每 取積 多 於 傷 次異因協 栖息猷勒

罪又有發余生南海~演 佐及天二生 切准遵矢之意不可 在马言 一姓女百

给其犯宣令会 日是るが

洪岩 お温 うなな るるみ

星 繋馬、 必 總 有其理矣然 者 温 滋 地 化曾不識 學不 豫 厚也、 禽蟲 主理 魚鼈 山 战 嶽 而 中 而 江 端 量平源 海 倪矣 在 馬 天 我。 之 世 有 而 嗟夫 量著 髙 也、 有其 德 類

~春石底世童書 谷清好

之夫委為

因然乃考其意心

Kitasato Memorial Medical Library

其 其 夫 搆 非 界 說 間 而 理、 知 家者 遂 其 釣玄 者 有 世 於 益 治 不覺 是 出 夥 極 酒 於 無 不 矣 要之 2 陷 精 類 栖 近 小 其 大 雖然 扳 乎 世 息 被 歸之 賃 大 道、 西 举 澤 屋僅 尚 亦 以七 洋 者、 頗 馬 蜨 且 學出 補 、张 螟 亦 退 未 先 况 挌 末、 頗 牖 能 微 曰。 救 蟬 軀 户、 人喜其 其弊 空 窺 而 脫 1) 物 地

筋 能質 肉 就下手者言 不能窺理 驰 遇春 緩、 物 file 液 必 理 發、 渙 幽 分 稀、 則 運 度、 拘 伐柯、 在 至冬 典失 無 玄 春 主物 夏 妙 古 書 推 2 時 必 凍、 於 者 體 類、 而 幹 守 其 也。 雖 何 前 旋、 俱 理、 理、 哲. 寧 罨 不 屑屑前 肉 得 収 而 液、 不

物 向 至 豈 形外 古 盛、宗 物 昨 情、 無 盘 漢 非 周 而 彝 守之 歲 監 新田 是、 密 彼 致 四哥 平, 緻 蘭 黻 精 唤 而 有 且 郁 濕 必 其 緻、 於 夫 歲 郁 不 此 此者有之 能無 覆載 乎文 大 功 不我 業 具、 11 駸 矣哉 平 技 故 斯 間。 然 雖 亦 典、 亦 隨 校 則 渢 交 輓 然、 渢 馬 近 而 而 日

喪扁 腥 鵲 鵲、 於 臊 滕 夏 傷 巴 害膓 匹 后 近 各村 胃 世 刺 者、 的元 為 而 而 刺, 刺力 暴 燧 愚 必 湯武笑矣 亂湯 爲 的疗 轍 私 蘇 出 出 馬 高 有為 茍 盖 、铁、 能 上 治病 古

臣。 书 是 吁 焉 若 3% 吾 不 揮真 身 用 不 平罪 役 必 蹋 實 面 役、 焼 先民 均之 目。 同 之無見 志 奮發 者其 誚、 五. 者 之 圖 新 亦 大 陳 惟 醫世 書 所不 州 識 轍、 也 肉 麓、 辭 之赤 何 il 竟與 至此 而 為 步 靈 舉 吉 前 司 知 余 魚 以 团 為吾 村月 伍 忠 而

此。 皇 俗。 蹶 魯者 多肉 橘 國 而 於 然 譬之 瞽者 寡肉多款 疾 以 枳 此 也 卒陷溝污 彼 寡 病 者有之 之 且 國 化。 來 吾 况 持 籍 固 觀 術、 被 耳 使被 其所 習 直 夫 不能無同 枝 之 縱 施 泥 賴 不似 致其 諸 拘 繼讀數萬書 不 者、 我 株 審 果 唯 守 國 身 也、益 有 無 飜 者、 譯 徒、 飲 向 漢 恐 曾不 謂 食 風 背 篇、 土 土 存意 喎 好 方 西 韻 周

則 D 古 偏 循且知 價事此非其書之為過 人糟粕已嗟世之工其學而 能以言書不可以傳書而可傳傳而可守者 則其術可治其術之活 見其實故 出新意則糟粕 頭 及拙於無文凡醫今使人 語 士或主張漢土或 日學而 以書御者不知馬之 不思則 而 己 將 罔思而 也猶輪 龙 何 租 吐、 日示某 喎 何 不學 情趙抬之 面無敵不 不致思於其 釀、 扁動輪之術 故 圖不及 能 始彼

劳力終亦 其要者流 先得其書之主意主意既得則章句逆及 於此 雖然 其修學如 無所滯礙事理無所滯礙 覧 乎可謂善讀者己蠶食系 學欲知要學不知要則臨事無其 啄花而 何為古語日知其要者 散而無極豈虚言哉故 覧.則 子思由學所以益才 固 釀者蜜非花 随不 免為鄉 則知新之妙成、 欲讀書者務 一言而覺 也 能 而所吐者 人苗欲免為 讀其 碼所以

雖 博盡其 其 絕豈以 握 然吾所 給食者果村 之於樹 其肯察也夫草木之生尚能專其 相 馬當今 類耳若以他技相擾 重、 飾 謂博者非別治他技之謂各就其称 以 一勝景掩千萬景耶學之為事亦如 佝 衛其 栗基書畫或詩賦文學有所 僂 之士舍己之所學以 則備宮室罨械以利人 術等使其栗 之於蟬蕞爾曲技 則其術終不專 伯 猶且 他技飾其 民也、 用怡 無 走 頹 而 以 而

徒 書 用 有一 有 吸 登富嶽 况 漢 何 吸 日疾醫之術盡,乎斯喜其同於 海內 與人 蘭之別而其志於治也 必求備 失愚者千慮必有一得庸法俗 翁而 一名水 爭奪 之廣 而 於 已其外尚有松 不知其他者即富嶽之 也然泛 猶不過 吳 角之戰 山 一書哉 水 之多未盡於 琶湖 富 嶽海內 嶼嚴鳩 而 一矣 不知 况 而 己 此 一名 一焦夫琶 己其術 書亦或有其 知 惡其異於 天柱、 者 其 勝 者 即 胡

試 官、 當 周 縣 欲 考 是 禮以 海 法漢氏承 官所載二戴所記章章者於今 朱 可謂盛且至矣士之居世皆殿殿於文事 其 時學有學童库序之別職 明 信文 制一代之彝典三百三千勃 既有愚 满、 以 獻 ンス 點之 對射之策隋唐從設 實不足徵 四 子 政挾書之禁猶 明 經選用士 也 周 王繼殷 有師 日 類 也小 科舉之 且 西 勃手其與 儒司成之 土 DD 周 政

如

亚

覡

樂

工

周

官

所載

疾瘍醫

亦

技 詩 亦 如杜 於 飾 慙 馬 而 墨行者不其然乎効夫南 斯 能雷同於 末學層受 之甚乎於夫 肉其誰欺 誰之過也 技 如司 者益 手亦 世 性 逝者如水 所以 馬、 且 有 日 樗散雖未足用 於刀主 獻媚求售何其 月不吾與 自欺耳竟與草木 然者前論既盡之抑我 岩 何 可不勉矣去 郭濫 益、 少而 西 韓 土唐虞夏商 不學老 陋 吹 以窺 愈所謂有 同 拙、以 朽豈不 彩 而 悔 班

200 X

朝 國 余天尊之 訓 之舊式 自 為大 計 天 舞 鎌 統 生 玄談專 平之修 文士 倉 **共**設 神武一切 以故 緒 卑且 德 機 以為務浮夸柔顿 飾、 儒 閫 耕歷 無 之政、 哦 用、 酒之 山 頌 釣雷 可 速 述、 烈 以 間、 政盡 終 淳 鳴 見矣所以 君 篤 者 取 以 閫 成性 尚虚 寺 於 然者 王 用 倡 查 伍 非

豈 不過 如此 面 固非 旣悔之亦 時為醫者 為 喻 而 雖日幸免秦火之厄其 有識 D 則豪殊之 訣 國 功 愈 已被土 利却 不 曰、 里哉 無有文者 亦有所 士誰甘為醫其甘之 驅虛競棒以遺其實 如 所賤 由、 著 故 實全為西 而傳於今

亦 度借其 言 技、 石 是 異 頑。 也 王 脆 其 猶 最 性 有 肖、 也 顯 有 者 三 也 臣 亦 被 品 為太 亦 平 有 安 修 日

言毛

强

日

則

有 五 剛]-者臨治 或 部 合 病 而 疾 病 、細 之 纖、 呃 至要不可不察 脈 脆、 而 首 漫 偏 外 此 吧 状 脈 而 吐或 合 無 形 有内 態、 遲、 强 謂之 肺 而 亦 岡小 此 偏 由有 緊 而 又其 内 偏 也 二等質 也盖 此 者 合 偏 質之 有 性 輭 質 脆、 脆 也 招 也 或 或 者 雖 强 短 内 氣 胃 剛 而 肉 咳

小 而 言 膏 多 疫 分 其 病 膽 可 者 癘 血 否. 多 毒 指 者、 則 則 而 毒 小 有 病 以 于 而 及 壯 配 配 論 黑 體 諸 熾 殊 最 膽 之。 其 驅、 粘 小 性 多、 强 耳、 長 -اراد 隨 中 是 业黄 以 稠 輭 地下 其 黑 物 脆 況 而 夫 點 多 性 粘 稱、 種、 而 質、 血 稠、 則 以 ili 為 者、 多多多 使 謄 石 於 似言其 者、 铁· 物、 29 品。 各 有 比 而 盖 色 隨 輭 状 此 非 態、 性 論 脆 强 岡川 而

嗽 固 性 洪 此 内 種 遲、 而 多 種 種 部 血 ter 種 者 雖 異、 而 而 輕 或 漫、 其 有多 健 如 飲 削 多 有 視諸 血 拔、 内 性 眠、 好 而 多 者 液 謂 彭 膽 肚、 相 浮薄 肯 或 者、 安 本 者 逸 此 品 故 而 則 論 弱、 推 性 沈 脈 而

毒 而 自齐 等之不同故雖微 異其味 而 疾之 在自 雖同資稻米 在、 也 成、 其 疫 先 從 性亦復不 自疫其毒 罨 異其 以水穀 或兼齐在或羅疫乎微 性 質而 證 同 合成 為 固 化 候、 是 相 以 疾 混 也 非毒 有 同 而 徽 究 焉 自 徵

辨別 而 在體、 盖 防炎 凝 病毒之前 有 土 氣之在,天 猶氣之在天 從異其 辨此 家 盡數 在體 腐 形 师 質而徒 萬人之 一急務 是 感 有 以 物 種 拂 有 索方 有禽 也以 陰 種 觸 故 陽 又有寒熱 氣 性 去猶不導 有昆 而 種 而

國 肢 種 矣 感 醴 病 者 傾 状 亂或 内 因 也 言 之病 滚 生於 矣其外感 淺 苦或 者 種 坐、 不能無種 種 就 飲 成於 之 食 冠或 安肆、 異而 者蒸氣壅 毒 外感或 出於 種 言之之 為種 是 内變然其 則 因 無 塞萬氣 雖然 生病 釀 馨 種 於 安 状態已 不能 内 説 感 傷 社 觸

着其 部 沒浅者 滋蔓耳 而 怒或 愈 而為波淺已 非 如 日、 笑或 一星之 否 脫 酒 所使然 疽 者有數 酒 則 者 浸 或 不可謂火有波 飲 馬、 也 否 部是 尚 延 原 毒 其其 不略 之 拇 不毒之波乎 頭 者其 直 其為火 無 淺也 被 主世 淺 是 酪 亦 而 而 時

毒 而 為夫 問其故 法 由其楷梯 有明究之 者 因、 及感冒痛 頭痛 施其 疣 有 痣 又 曾 有其 鷄 腿擊痛 治、 而 喘 攻發胸滿浮 曲盡之者哉盖 皆 照此於彼 風之 急勞察水 眼 因· 在經實驗 同、塞俱 異、 則 不 照彼 問其 腫 腫喘急咳逆者 同 痱 經 因 因 於 痪 閉 者若 為之 實 也、 亦 此小 用異方法 治 又由 黄 有 以求其 驗 拘 因 者 胖 因 楷 治 因 目

果 同 為治者 由、 由 假 致 其不求之者固無論其 益、 也或 以其類推其 效所謂 智之所不 果 因 痘 日 而 推其 則 主其證候不求其 疹 変虐黴 偶 類 中暗的 類、 病見同證 ter 而 而至其義 料為彼 恐 類、 强 不 則 有 不求者 同其 因亦能 誰 能百發得 欲求之者 之盡而 日苟不知其 究其 問異 因 治 因 而

其 生 地 多 不 病 地 腹 寡有 得其 勢 多來 之基原、 診 川沼澤之邑喜招虚疾脚 有 哈 之所 生 無凡 冝 腦 馬、 之 使然 逸化 2 病 本 以 僻 奎 也故可先存意 落積等證 百 四 也哉 遠 診 質、 病 之 西 陋 根 巷 外 洋、 于 是 之 又 土、 地 啓 無察之 候 腫等證 於 殊 之 腹第 胡力 所使然 此 生蜖 兒心 之 佩带 而 病 析 通 及其 之 屈っ 黄 診 此 而 胖 世 非 謂

機 髮 因 有之者有之 若府有若拳髮角唇枝 則天禀之所為而非樂石之所及 长 而 不能見其實且備諸參考之一具而已 分毫之 固 爰有 之免 今以有之而推之内 不外於 効者 豈不若之 則 唇指之 終 一種 無得其 之 駢贅瘤之類 枝 因. 内 治 駢 類手然無 以 也、 肉 各隨其地 之贅瘤 亦得不然 外 治之在變勢 物喻之 百方盡 而 障碍 世 而

有益 若 脈 於 而 稠者其 能 識 望、 為 不 繋諸 者望開 潛心、 肺 而 虚 急 、缺 麥喘 言乎蓋技 理 數、 脈 罨 故 以 其 越 其 哮 液 此 之二診也 絃 所識推之 之於聞 浮 病 切之 而 望齊 沈 2 緩 ter 妙。 亦 其 遲 岡川 無工 管 今徵 在 侯 數 何 而 則 潜心 益、 粘 輭 其 無拙 者 他 鱼、 所 柔、 顧 致思 冶 脈 病 以 而 四 易遊 十五 二黄 診 不可 長 亦 皆 血 無 無 之 通黄 最 由 稀 不 難 此 識 也 脱 薄 而 是 者 而 不 10

宗 探 如 其言 其 體 數 熱 候 魔 擦、 廟 之有 腹、 状 之 安能識 則 闕 鹵 未當 虚 則 實 庭 各由有其 他 之美 實己、 亦 四 被毒之 診 且 則 大口 可 也以 識 藏 特 推 虚、 則 其次 醫之 羯 誰 體 府 脈 知 所在乎是 之 之 液之異 須 伹 而 所診之 外 實虚耳浮數有 位 浮沈 刀圭 盖 置、 遲數 諸器 也其管劉 脈 之 脈、 循不入其 且其 之 搏 乎. 伹 2 而 連 所 識 動、 to 以 以為 各 熱 浮 强、 其 徒 之 沈 沈 而 診 按 而 遲 遲 血 而 如

其 活 是 腹 田 者 毒 轉換 手 屎 過 而 然 膿 故 失 段 大 全 雞 直 而 廖或 黄 術、 而 也、 血 曰 日、 治、其 轉 之 百 又 辟 治 泄 醫 便、 無 工、 故 治 無 瀉、 自 日、 而 先自 刺 中 然 何 之 不 也、 砭 類 者 轉 不 河 蒸氣 然 轉 轉 自 是 痛 治、 豚 换、 其 過 毒 也、 刀 風 壅塞、 轉變 臣 失 其 創、売青 寫 而 過 僕 之 轉 轉 失 根 則 者、 亦 换 也、 治 治 鬱滯 故 治 万察 轉 也 狂 癬 2 其 此 腫 癎 類 = 而 於治 發 諸 痬 是 自 廖、 日 或 熱、 刺 汗 之 也。 自 然 頭 類 唾

讀書 出 治 遂 獸 病 諸 石 通其 在驅毒 乎 藥 治 若百丈 體 博 膿 丹 神夫 療人 呼 血 也 難 カ 則 姑 即 驅毒在假 取其義 矣 以 不行 有其 技 馬區 也 故 狐 其 楫 至斯 靈 察汗 毒 於 通 而 舟、 北比 百 天、 丈、 不得通其 哑 D 馬 非水 圭 亦 即 之 屎 大口 膿 利 則 石 路 种、 不浮 液、 用 An 何 岩 非 能

而 類、 諸 自 然 順 謂 他 遥、 治 又各 攻 理、 圭 治 速 指學草 應其 能 可 西 桥 毒 其 厘 以 醫 固 謐 耳、 病毒有異終 妙小 而 ンス 有見於 但 至此 且 現 步其 施 楷 諸 為 亦 法者 窮 此 要 患、 而 矣、 驅毒 不 要 隨 固 性 現 治

治 如 其 其 則 項 强、 與備 言 果 攻 説 至此 然 治 則 延 崩 開之 急 且 謂 則 腫 劈之 無助 臣 瘍 之 而 下 血、 窮矣或 僕、 通之、 脫 焮 利 類、 此 膿 衝 而 新之接之 隨 疼 亦 即 血、 又 聽其 痛、 助 自 攻 方、 然之 自然 治、 日藥 廼 潮 桃 膿之潰之 自 花 熱 而 皆毒 然 治 所 則 譜 四因 力或 非逆自 也、 而 喉 謂 促之乎 吁 急痛 是 以 肉 何 枝 言、 指

如得要 必 齊小 之 用 而 欲 脫 或 名 得要非 和其 黄 皆 矣蓋 名 吐 汗 用, 發 劑小 剩小 要則 喇、 肛 泄 凡 下 亦 也, 他 劑 百樂 亦 不由 名 僅 生弊 利 伹 在知藥物之 以其 通小 1XX 物、 如前 劑 現 各 所 有其 所出 膚之 發泄 而或 便瓜 效 所 去、 蒂 名汗 能 用、 其 若 果、 然徒事 欲去其 剩一 異其 用旣 亦 現 其 為

尚 用 者、 又幾我 說 阿 以 飲 言 片 食而 為 强 分 抑 而 故 於 附 離 純 西 幽 至微 苦 左膽者其 會 現 配 効要 藥有苦 之 合 甜 曾無現其 玄 至精 極、 至 以質 廿且 固 味者 色 亦 與 至 非 漢 黄其 精、 効 有不 吾黨 用、 凉 智所能及 辨、 女口 亦未足 曰、

的 故 如 自 味 者 此、 變 設 廿 ンメ 方 本 者 古 有 吾黨 安能 無有 無 定 杰 出 2% 方 知樂 可 於 應 也、 所波 為 别。 門下 則 諸 措 所 慙 劲 有 其 歷 謂 刻舟 也 里、 用 無 非 設之 求 徒 飲 國 而 学前 差 食 者、 地 ンス 不可 為 方哉 有 類

而 其 誣 日 七日 也小 其 屬、 路 力口 排 可, 諸 不 蜀 謂 滥 發 漢 荟 近 廖 以 世 何 泄 淡 飴、 而 也 徒、 諸 七日 或 去 緩 信 論 以旨 和 而 所 日。 夫 為 物 背 則 意者 麦其 鹹 味 九 百 味 尚 味。 毒 遊 古 且 和 ンメ 守前 淡 謂 齊月 X 謂 發 凫 泄。

恒 異 言 他小 或 拾 前 午 者 鳥 前 强 論 ち 方 不 樂 得其 見其 所 所 遺 聲 謂 於 奇 應 奇 1 京 性 不及 質 方 能自 者 而 垓 档 變其察三 有三 是 沿 抨 不能 鳴悲 磨之 革 新造而 盖 大 自 風習之 夫 大 猶 異、 百 得分 求 抑 異 方 丽 如、 方 故 守 = か 若夫 是 茍 寸 藥 方 衣 能察此 不奇 不應 而 愚、 里也 百 舌 其 大 方 鳥

習一 當 傑 變 柄 而 信乎哉 即痘 不有 各殊其 出、 方也 未有致意 不得以 民或以外 出新 方意 梅 且 夫 流 毒 中其 者 古 之言 杂 於 通 國 欲 類 衣者 國 者 是 矣 曰。 所 書 偶其 方 用 徒 有 也。 諸 汗牛充棟皆 定 旣 舊杂 無前 中其寒所 病 時 我 有 各 业比 移 古 國 衣之 變 方而 病 方 而

軸 想 此 非傳其方 無 所在 如 論 有靈應泣于地 各成一家方 宋 景之方在其當時悉為奇 今而不奇 元、 即法 傷 於後 明 不奉遵 清之 之所存後 寒論不為足 者固非方之 人欲使後 然不有 傷 閒、 寒 名 下其幸未及哭者 論 師 者、 哲 也 不 知其 匠、 問其 郎 而 不奇時 取其 方 之 排 出 法 方 其筆之 時 法 毁 而 機 守 仲 典 而 其 景 朝 軸、 各

盖 守株 者 假 其 質多 此 口 可變者今先 カロ 待兔 方所 通 不得不 液 多夕 而 液 不奇性 ンメ 國 類 之品 而 肥 不得不變也 膨 汯 手、 以性 易 者 也 何 何 質論某 本
者 在 者 要 使之然 其 矧 不假 可與 如 為奇 欲 固 又 有人 方 不可 慓 他 液 以沿革論 施某 悍 且 液 而 夫 氣 方而求其 則 發 病 止七 液 削 者非 其 而 不奇 者

目 其 源· 垣、 亦 故 固 安 之 口。 持仲景之 得不異其状 語、 奴 分量不可輕 何 調之 子 其說果是、 隸 擯斥五 也、 = 天 也 之所賦 枚 分量之 而 德 說 厚朴 態故 忽一品 惟輔 爾來主 本 則彼所主傷寒 正乎夫 **吁于前艮山隅** 分量也 頰 各異其器 古是 張其 不得其 枳 實七枚等 分量在人 者奉其 務 說 者輩 論 E. 液器 方 則 出蜂 良 而 類。 則 馬亥 不在 石膏 唱 让上 方 旣

法 設其 其 世 者不可變蓋此 飲 地 非其方不一奇地 何 邈兮不可得而 食也 寒 海 方 分量製法 為 此七 暖 又 來貢比 始與我國屠夫相類故 之異其俗毛 ンス 方所以 風 習論 謂 方之使然也 不一奇 致為慶元之際弱宋 也 彼 不 絶、 衣戰食 國 自是 奏其 一方 ンス 彼漢土喝 奇、 王 降 方 此 公 尚 滔滔皆丹 謂 國或 可 從其 方者 且 胡元 蘭不 可 翅 而

效 生 所 創 尚 審悲 幸 成 者 至 養 恐 無效、 者、 身 無 除 旣 稽 夫 共 方 病 之 西 至要 之 其 天 說 鼠 行 自 後 稍 所主 刮 華下之不能增減 諸 非 其 病 茍 傷 臨 一有 淵 垢、 寒 能養生 及 傳 然 論 力 美 病 屍 魚 方 於 不一一一 天 出 為 大 + 誰 恐其 日 略 味 可 治 音 = 稻 且

其 且 煅 而 藥經製 變其 無 效、 丹 皆靡其弊 宜熟者豈得一 世 炭 性 白 而芭蕉商陸 者若夫 酒之 记 則 如之妄誕 所為或差用其 カ 分量之 風其 類、 性 非 酒 不服枚 則 脱、 正 所靡之遺毒遂浸徹 經製者 生 乎附子不規 酢、 而 不 均資於 汉 正、 不能效功果 其害豈如所言哉 何 全其性 舉想其當 方我未見其死 也 稲 或 米其製 藥有宜生 有異其 如之 後學 無豪

不豫 害其 生、其 理 以下 XX 條 穀 示之 肉 夫 水 火

生 相 妄用 遠 物 也 質 申 覆舟 由學 然 丽 髙 異 也 化 而 貴之 生萬 **头**毒 俚 術 形 語 態、 邪 於 性 剛 保 口 E 火能 質比 由 也 折 穀 ンメ 殊氣 肉 曲 利 而 固 物 違、 無貴 亦 又 能害物 由動 賤 稍 止 而

Kitasato Memorial Medical Library

發

腫

失

m.

及

卒

厥等之

證、

性

多

脾

者、

宜與標

悍

品。

妄

腥

多

脂

粘

稠

之

物、

胃氣

弱

血

之

揮發塩

消

耗

因

來反

胃黄

胖

水

腫

勞

而

高層梁

之

物

忌之

否

血

中

油

氣

增

益。

M

健

忘等之思性多

血

者

宜用清

凉

緩

和

之

性

禁之

否

則

膽

液

益

稀

薄

遂

生眩

暈

頭

旋、

膽者宜要淡薄清

凉

多脂

之

品、

而

燥

變質

如此

况

其

性

手

故

飲

食

養

不

可

審

其

性

輭

剛

於高

貴

剛一

無

他

由

靜

坐

之

券

石录、

習

同志也 等之證古所謂上工治未病豈言之乎然未聞後 者 使古未之有職府經絡之名及其圖之存於今日 有中一言及,于此者故今舉其端緒以示,諸海內 藏之義考之醫籍無可徵者又於儒書中間 從事於此名圖訛傅星移物變遂失其實也 亦不足以微無微則不信不信民不從也雖然 何由而識且傳之意者古果有此術而後人不 解藏 己 明 等 等 公室 見

為宗 其實則能有信之者哉我國近來唱蘭之學盆盛 實及以疑之又猶禁公之好能矣蓋喎蘭之於 爲精之藏此皆外察空想不足取信於民者反以 或以胃爲十二海之海或以心為神之室或以腎 矣是以邪說 虽無空想之弊然東其吐精之勢終不得無其 術愈精遂得見其實傳夫外察空想者今見其 那祭龜人者馬日山此 剖之牛毛血絡析之蠶絲或膚革則 起戶唱家稱或以眼配五輪 即真也不見

北五

Kitasato Memorial Medical Library

故舉其大者 耳 信其可 物 要究其至 信、 同 與夫 稱之 則 為世笑蓋 而 疑 小者自 其 至石 劉沙 至 神 可疑若 於 妙 經 思ス 解屍 血 必 奥 差、 剖友 是夷 解屍 庸 寸寸 必 可 胸苦 剖牛 度之 不如 信 識藏府 至文少 想推其 不疑可 里、

空 力於 求夫其求之者將以是 校 想者 120 肺 功 小骨或小 而 囊則 者之 已又日膽管生山小 無用又若夫 走 然於生者 相 又信弗 距 所不必 分數萬 虫則 又 有幾彼概弗信者 疑者爲尾 脴 根發顛 汲 無察之 且 胎耳 欲究 汲 相 也 石 衒 甚哉 之 生恐竟抱柱 則 目之說其精吳精 將來 使 術、 七刀 玄 則 世 種其實固解 與向 之俗輩益奇 黄 微 固為某公見真 之 疽、 好怪 所謂 極 而 因 唯 徒 故 耗精 外 月凶 怪 而 體 吾 妆 中

所賦物皆無不之有也益元 間 三光 是 脈 則 12 級韞目 神 滋養 能 也 神 身是 則 精 氣 也 ど 之玄 者 北七七 而 發萬變 然 陰 亦中 脳 15 主意 陽 固 交 非 錯 元 識 氣 而

精者 前 皇 沛 也 而 益 國、 行 王 覆幬 前 深蒙 虽醫 飲 精 可乎 則 食之 王之 神 遂至,茶倫 哉 道 澤者 而 技 汰 後 其 地 本 如此 傚 找 米且 可擇漢 誰 也 直 而 不飲 我 生吾 土 徑 於 喎 崩其 飲 肠 而 間 他 既 腸 **米青** 間

Kitasato Memorial Medical Library

清濁 所以異者 且喻諸天 由其 無不與干此但其不異者精其異者 不至 元氣 也其清 視 微諸 器 由其 行 者 市市 液 足 濁 之 疫氣其為氣也 天 氣 器之精 異 凡有血 地 蹈 不超禽獸 雲兩 同益元 舞 氣 即 粗而 行 元 細 氣 人 氣 施 之 無 其器之精 在天 夭 之賢愚亦尚 類 海 幺丁 虽禽 皆 而 運、 水 無物 吐香 獸 不同 神 粗、 虫 由此 即 魚 也 禀 其 主 亦 神

者 肢 痒 身 豐 體 不覺者 即 爲 滋 精 精 也 血 死 筋 舉 者 液 者 以 而 元 為養 流於 膜、 神 動 之 氣 帥 不 至爛 飲 故 絶 之 用 使令 今 师申 神 食之 血 則 也 乘 者 破 以 以 脈 神 所資 致令 有 食足 病 腐 既 而 纏 液 絶 形 敗 痱 行於 絡 換者 一身 者 必 也 也 精 是 所 百 死 謂神 之 徴 無 豐 神 12 以 藏 榮 焉 条型 飲 之 此上 食絕 養尚 舉 不與於 而 者 温 液 動 網 即 羅 暖 能 不 絕 氣

華下,之於地尚 物 魚三其清 最速矣不觀夫草木乎折之 皆器票 重也是 也清者其 有清有濁、 物 也 之 誰又謂有異 之 以 而 異同, 神 七其 神 能根要乏草木 之 濁 從成清濁之偏 去亦最 哉天 然而人 濁者 濁人 之生万物各 遲、 一其清 則上其清 而貯之 漢謂 則 合、 重 輕 固 於 螾 非元 水尚 而三 九 神 也 其 之 去

遺其精其說神或日神潜,藏頭 之 豈在他 身之中央猶君王 而 神 骸皆是神之矣神之爲玄妙 謂神 之 合 下 而 有不之 政 所首斷不曾見一人能瞬動其 哉鳴呼 氣其實 於 口 者 百 則 骸 而 此 猶下今於流水 鰻 何在其為玄妙哉或 也 位中 一矣 何言也神無不之之處一身 鱺首斷 世 國而施令四方神之潜 之 循 謂精神 能 也以其無所不之 之 中頭在一身之 飮 原 者 目 間 也 虫丘 或日、 說 螾 又一人 日我常 其神 两 N

誰不太食而其不知所以衣食而食謂之素餐素 餐游食丈夫之所慙也則治生之称豈可忽之乎 儒生坐論空言終無所絕 也自幼長於翰墨之 人之所急也人不知所以衣食而 慙衣養掖 長尾煥子章 谷本慶 中目之無不典籍耳多 日請家翁口、 謂屠龍之 子餘 竊觀近 可 技

100	STATE OF THE OWNER, WHEN	THE RESIDENCE OF		化化物 医原动	Reverse Bus	STATE OF THE PARTY OF	NEW YORK	50 76 78 50	The state of the s	
The same of	醫	元	化的	#	de.		福	Take 1	以	
	轍	44			36	和	泉	Jan 1	各	,
1	終	有	Rush	重	爽	*		福	各遂其生	18
ı	类	献	香、	4	条	公门	月		其	
ı	製	廊	強	奏、	-16	34/		(第	生、	
ı	1	制制	基	1	學		頭		嗟乎天之	1
ı	1 美華 9	書#	特	100	李	L	壮上		于工	1
4	建	100	岩雕			土佐	備後	100 m	大	
		S. Els	- ZW-	0		14	1支		7	
۱		科學科	(報)			با	700	X	玄妙可坐	
ı	司	八度门	本	1000		宮田	今	Thy I	可	
8	張	STATE OF THE STATE	7/4		前	五	井	1	业	
	李	HE SECTION	甲醛	Title !	48	永	執		軸、	77.5
ı		10 mail	Siz	初島・	100	柔士堅	井執大象	1	觀可默	1
	能	東海 下	1934		14	H	浆		黙	
	350	THE ON		dat	este i		1	司台	識	
	City I		· 有种	153	脑	村	交	TIE.	矣、	1
		FA	ALL!	Talk and	是社	1	700	· /	4	1
and S			100000000000000000000000000000000000000				market and			

說若 或 先脛 五 足以免素餐之說矣 衆 問、 安其居食其產是 不生毛 多 也夫 周禮 條 日在 1 云邦畿千里之 以示 平、 俗 益 雖臣 廣之勞,不苦之王 昔 里人衆之所止而 且土曠 諸 禹之王,天 附 13 四 方 以 民 食 1 君 極其 生疾病殊寡及後 子 人淳 下 内、 疾醫 或 味 也 福且 身 取 致遠求珍 執未 + 而 者 有 以十七 無役 稻 耜 於 世人 斯、 人 以 終 10 如此 追時 為 庶 於 幾 沈

陽 主二 鑫 若 醫乎賦一 善哉言 物與為無用之 儀 作高 過 秦 然 測 + 眼 鬚 七 餘年軍 論 也 目 見 白 律 良 自 有 堆乎案上即影 漸 託 餘 相 述之 愧 衰 以 良醫吾 長 視 示小子其辭 思研 東 旬學文未得同游 西 物寧修有用 數驗齒牙半落食勞唇 本 篇今 南 精、 北 今而 蟲篆刻 亦言之 不輟 因二 余於此有感 云 書 之 要為無 夏好說 愈] 小 三子 未至其蘊 1) 年來 子 技矣家翁 亦 誤 無為庸 龍 遂 無似

其所賦 其 強 能 婁 而 不順其所賦之者因而 成 之捕鼠 然 之 其子 也 世 明、 者豈能為人之 故 才譬如石 之 師 不至,其 人物 士 猶教理司夜教雞捕鼠 即天之所賦 之 知其 聰 私其藝家賴其利欲以己 聽聲 有天 所賦 妙 上哉雖然 地 不成縱 之 之 也 至 嗅易牙 有永 學順其所賦 而 從事 乃 有成終不及不 不一錢不一井 也夫雞 於 不學不能發 之 味 斯 則 不勞 之 司

里 而 而 脱 病亦寡通邑都 天 而 不上止 而 之生物物 貢之言語 何 懦 爛 日 七人亦不乏之今夫 然 也。 生疾病亦不一 田 人而息蔬食菜羹民是 是以 野之 則 各有所賦 冉 飲食動止養生者之 疾病亦 會畫雜夜飲 有之 狗筋骨壯 政事子夏之 隨而 而 而異其用夫顏 足 健、 寒 膩 夥、 itt 也譬夫鮑衢 由此 酒 以 即非飲 物 碎 所不可忽 輕 肉美人 文學各異其 健強 觀之圻 地 之 食 民 是 壮、 之 之德行、 之 狗、 疾 出

衆 花有星學一先生其父雅,其 通 火 於 利] 生莞爾 其 果 日、 獨 議 愚 先 女口 在 慮偶 生 數 術、 曰 平 謂 其度與夢中 子等未免以書御馬之弊習矣又 二三子不識夫 密導利 中幸救一 B 此 名 附 測薄 帥 者於是 外氣之 中 然 患餘 寒暖 非 逐 寒暖相 舟車子動傳 所壓 病其 絕 除 無通氣 坐上 難 惠實仰妙 齊 結 也 四 一證 别 廼 乃臨期 大 以驗 臨 患先 爲 期 測 氣管 更 謂 嘔

曾聞 不 畚 子請再與 之 旋 盛惠 者 察 賦、 子 急 吐 乎, 數 造 法 則 江 か 者 知其 能 患者 廻 之 州 承 生 廻 繩 三 醫 能 之 新吉 術 敗 極 日 生屢以奇 會有 於 而 而 防 旣 而 用之 脱墜懸之 父、额 放之 應 吐 日 則統 患 之 11 則 旣 子 者與此 無一 大 應 術 薄之餘勢畚 犂牛 於 則 及 取 傍 不有其 効 梁 何 觀 傍 故 之 殊 劑 不吐、 長灌 者 不 效 皆 應 持 學者 自 水 默 生 而 左旋、 的 東リ 天 右旋 之 D 絡 而

故 求之種是 昔有浪花 故 固有其種元 有 国 問其 其 有其種元 何 好 否從 種 毒殺之有、 好 元 也 否察病之 則忌惡之尤甚者也若使其有 又若夫毒殺諸藥原 也 一發生, 旦,秦伯玄,天禀好酒、 不能無淺深 也是 也益聖賢以禮樂化人其從化者 夫禽獸 福油之傳火 附錄 以 威 一術 飲食好 之異所謂 杖 否皆由種元 釜化之終 火之不傳水 不有其 同 五 氣 種 相 不 不曾見 之 求、 此 相 元 女夕宣劳 曾 同 音 不 固

者天胡 此 慣 不完之矣問諸理 不得不為嗜好 而 乃曰天之生萬物各有,種元而存 事屢 12 之 無 於飲食各有好否而不一然 有使 很 全 **嗟夫** 語之 庸咎公 之 信哉 於入亦 者其使之者 能全之 等冀幸聞其說 之 物 學一先生日 汉 假不為嗜好 而其有之 自 戒古 何 女中、 此 衆盤不能答余 終 不能無多寡之 即慣 之 漸次用 日 焉物也 無辨其故 物 亦 命有限 也余 得其偏 可 曰 致

肩韶笑 恃富 肯為汝 不欲與 態儻倘 天雖扁 豪茂視者整歷君 祈、 而 無禮、 故 曹所污乎遂浩 禽 治言未畢 頭 獸 雖過說 倉末如 君子循 坐之 雖能言不亦 聚華 附 發勃 77 激亦足以羞殺 之 且 之 地 然心 優待 浩 衣、 何、 所謂聽伯 斥、 然 禽獸 况 作色 73 盤者 去 奴 無 所 禮 之 云 田 莫甚焉禮 夷 夫 中 汝 心乎 汝市井賈 司 出入 病 11 命 余雖為散 者頑 日 治 否 原

家人 獨 儲 治 知盛意 以 五年於 之 隕 店 無慮 犢鼻禪耳管店子乃為探囊出,圓 亦 雜之 意晏 贖所 子問 到 iti 侍、 女口 女尸、 色、倨 前請其氏次邀某氏不全又 典 其 承 何 賁然 華伎 故 接 耳、 惟謹、 傲 劍 H 而意氣 豪賈使管店子來 不屑 及 倆 衣裳非 診、 頃之 終 揚揚 何幸 不異行氣發之 病夫 寒寒裸 典 力口 然、 自言口、 之 以縣酒 到其家病夫 體家 敢 布衷 金數 邀、 債所餘 要某氏轉 辭 無修石 所為 走 而 心, 在豫 不應 俎 曰、

無不 乳者出之、 稱仙 乳 二味、 愈者、 鷄 頭 相司 鷄 卵油 氣者多空氣 破 以水 如如 必 印 裂 須乳 能 三 油 神 治 合煮二 附 乳 錄 麥蘖二 亞 錢和鉛華二分 飲 之角ラ及 口 欎 内 鉛 食 滯 爛 合 故 破、 服之 化 實 漢 也。 土 無勝此 H 隔蘭 鉛 糖 六 母 糖 有無故 里 方者 之方書其 分逢之、 布 斷

通治 廉懦夫有立志 兒吐 吐、 中土 不能如之 諸 連 不 味 因之 乳 適安 筒 翹 之所難治 止 者 多是酸液 薄荷 何 水 注射 即 此 煮、 吐、 白 也、 梅 北 子有焉 月工 之 花 固其因不二、 中 徐 方 所致 與之 能 効 中 椒 鎮定 中、 然 桴 妙、 檳 制 鼓、 榔 又 兒 酸 胃 則其藥 11. 之 中 以若 樂不 有一首 吐 乳、 不、 尚 且

右 梅 其 白 瘡 尿、 強之、 秃 味 皮 米 雖 由 細 味 三錢 瘡靈 微 和家 膀 糊 糊 理 悉 亦 九・ 九 脫 石 無過頓 每 水 少驗 猪 下 服 量三 脂 粉 日 U 合煮 逢惠 服之 衰 蛇 錢、 者 弱 亦 用之 取 图之、 故 即 不 合 過 錢、 治 日 近 蝮 H 來 強之 服 蛇 得 十 次、 次 合 錢 而 痊、 方 無 其 丹 他 方

取效多 王藥皆是 右 痛殊 腿 腫 無患 諸 她 痛、 煮 藥 妙、 破 子 及 以 無 五 適室 諸 大 驗 因 百 之 糸 計盡此 劑、 之 角 水 日 5 中 服 者、 反 硫 數 張 而 用 黄 無効 且 合 北 虎杖 治生於 ル 消 而 根 間 亦 梅 毒 能 取 治 大

豆 可不 欧 爲其質之所致 腐 之所致 者 测 以 不見其應 若 延爲其質之 小 類 爲奇平且 物 法熊諸木 頑 辦 之異 治之曾無有其 何奇之有余 之 物 同其質 榌 刻、 一奇樂屢絕屢驗 綿花、 所 以 夫赤豆 沙 致 有不獨 爲不奇哉 帖附 而 捕託 日其質之所致 異,其 利小 交力 爲 其質之 咬 面 妙 此 所、其 不 水 奇 或 九 淌 同 物 疼 所致 代之 非人 獨 石 曰 破質 此 須 余 更 固 此 即 勃豈 識 石 此。

諸鼻 治 指 右 定療殖 疼實 其 塗又 角 兒鵞 中 味 中、 煙草葉 酒水各 其 1, 疼 如剝蕉 可 施 痛之 17 兒爲痘 疼 諸 U 避其 瘡 痛 神 半煮之、 妙 妙 12 經 害矣、 方、 諸 瘡動鼻孔 其 倍 病 减半 其 即 前然從藥水 能 閉 取鷄 下火、 識 著 節其 落 子 而 痂 油 兞 寒熱 前後 諸 毒螫 羽熊 而 投

蓄水 盈 試 滴 如老莊 不 以 愈盈 鳴 來 泄之 則 水 造 舉動之重 而 别 必 也 成十 鳴 有 墨列首 則又必鳴其不盈而 而 不鳴非不鳴蓄之 一其盈 之不盈 不 滴 其 自 孟 之 不盈 鳴 而 人知之人鳴之以 韓 則 不鳴者 而 鳴其黃之愈 非 自 自鳴之其鳴 寺其遇世 鳴 鳴之者乎皆自 之 非聖 多出於 極、 鳴與其盈 多其鳴 逐無由於 泄其 者 也 而 不 誰 遇 何 其異 水 居 其 鳴 而 愈 服 焉 著書 者 鳴耳、 其 不鳴 大、 不 盈 愈 遇、 也 苦田 益 而 國

產 苦田 之 至 難治 古 言、余 寶也、 後 引曇水 諸 治之莫過前芥者又 滴 矢口 之 岩 證、 則 語 zk. 業 則 以 喻 額 日 己 苦田 爲 其 欲鳴不能鳴其不鳴固由不當 日 矢口 此 水 全 者 不言者 當為 治、 不盈 不言 滴 唯 zk 夫 則 旋回 吉 12/1 循,曇不、黃一 者 能治兒枕 鳴、 妄言者發非概 成 頭 水盈 不 首 滴 而 則 爲規 不鳴又 不 滴 痛實局 自覺者 水 使其蓄 述著 夫 以言者 中 徴 諸 滴

獲魚己獲魚签又何用其签不擇其所施 是 知万知億徒知之而止夫學者荃也筌之爲用 數出雖獲魚 讀書擇其所讀又得其 又聞一知十之質學不得其要則縱知百知千 至夫聞十 調獲小 聞 固 知十、 不待文王 上之庖 而一且不能知者雖有文王何 而遺大廼 即其人也 要則 而供十有五祭者亦 謂之知十可乎不可乎 抑豪傑之士雖固 聞十然 夫聞 後 知十 不待 而施諸 之質 則 以 全

亦然、 為馬 若夫蘇秦張 之 之 孟 蹈其實而著其書所 者平皆自鳴者也當一今之世其不鳴者皆不當 輕、 滴 軻 無 無人 扁倉華陀之輩無一有其書意者多識 曰 水 服之子今余於此 待文王而後與者凡民 者 王 鳴之 猶 也 儀高 興 悲 夫鳴乎 其 則不得不自鳴天下以誰為人 鞅李斯等然矣雖我醫之 所謂無文王 舉亦或不免此 謂塗美塵飯臨 而興 也若夫豪杰之 者 誚 其事也 其 12

益私 之 于耳 應者為之徒 居世 衡 而 手之握、 天 地 舟之魚不游枝流井底之蛙不知江 于鼻于 講 方今昇平之久文 地、 雨 不可不 施、 古 而 之天地 足之 磁 風 不聞一 擇於 與注、 玉磨屬 吹 蹈、 雪 霏 亦造 今之天 地、 激 各 嚎 不 能古其 旣 運漸 有異古 擇於 為世器 謞 異古 地、 吸、 日 開 地 于 10 者夫 矣、 月之 大 非後 唱者 者手其 則 技藝何 光、 爲之 海、 29 從 故 先、 唱

信造 問 不輻湊於此 質使其 而 閻 有德之 不過一方之事况 興、 可望之 謂夏虫 數 亦 百、 生涯 或 雜 競其勢 有釋於 說 絲 故豪傑或出其間談文於 皆喧哗無晝夜之別而海内 以中夫無文王而與者哉夫都之 氷意者、 陋居足 學富技 地 人與之語他 駸 如之 不當践大 長能風亦 有人于 駸其氣 則雖有文王 此 其 都 學所長 炎炎薰陶拂 方其所知 聞 地、 前 將 之 矢户 不之

卿,名張家言要傷寒之说家再 欲立天下之大功者必此天下之奇言也 安永以来名多學出類出新若要 天下之奇言者不顧天下之般堪去也 則夏安庸人也元禄以来大路南勃 改得名不能此奇感到喜殿

能古其心者則如吾之欲古其心而未能者縱我 賈之公然貪利且出於飢寒之盗竊無他自處其 之長或以資其所短耳 不能師於人人亦不能師於我惟一技之優 心其心釣名於朝射利於夕欺人自欺曾不如商 心之不古也海內之曠誰能古其心者世既不有 大阪 高松 曾根文士甫 梶原敬子顯

Kitasato Memorial Medical Library

之法也皆褐嘴魔者湯遊雜記天 而不取之於毒编也歸如為信用兵 石勒自居作文著書皆出之於肺 後横馳驅以意西運之不必後孫吴 北美文字以求人之進言也多以雕魚 下争論之夫雜記文雅解而说則絕 先生是書固欲立奇功於十歲 大手堂友

立出漢雜蘭行所收行言所你名實 和蘭之譯述再皆非為一家說者也 如何也自此有過人之轉磨何以能如 始新發菌之震椒不復願人之毀與含 邊流随美獨吾 書者精物也故平孝不事 先生為人不凡常回方者無法也 石康先生卓爾特 清演書

未刻	大年堂藏板	浪華
THE PERSON NAMED IN COLUMN TWO IS NOT THE OWNER.	市帝至	異異色と
The same of the sa	未刻外科學要	内科正權
	述目次	石鹿先生著

又政康憲者三月 吴荣書 臨師

保三年壬辰新 屋 茂兵衛 治右衛門 太右衛門

兵衛

回

n

兵衛

異異至大 石鹿先生者巡目次 正離 未刻 未刻 现域 大年堂瀬 奇奇至 製藥便覧 一路十四大 未以 未刻 未过

Kitasato Memorial Medical Library

